	基本計画							
章	章 節 項 細 実施計画事業名							
1	01	01	01	生涯学習推進事業				

	予算科目						
ĺ	款	項	目	事	事業名		
ĺ	9	05	01	02	生涯学習推進事業		

実施計画整理番号					
101010101					
総合戦略 整理番号	0				

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N	・生涯学習情報の提供、市民カレッジの開催、学社融合事業の推進を行うことにより、市民が様々な学習活動に参加できるようにする・生涯学習活動を行うすべての市民に成果の発表の場を提供するとともに、新たな学びを求める市民が学習機会に出会える場を創出する。	・生涯学習推進協議会を通じて市民の意見を取り入れる ・ハロータウンの発行 ・体験活動ボランティア活動支援センター情報誌ハローウインドウの発行 ・生涯学習フェスティバルの開催
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	学習活動参加者の増加を図る。	・生涯学習推進協議会の開催(年2回) ・市民カレッジの開催(全7回開催) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定)

			単		H29年度			H30年度		,	令和元年度			令和元年度 令和2年度			
		区分	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算		
		事業費	千円	456	456	429	456	456	38	3 426	0	0	431	0	0		
	財	国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0		
		県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0		
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0		
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	456	456	429	456	456	38	426	0	0	431	0	0		
	個!			内容			計画	収組に係る 予	費用(千 算	円) 決 算	個別:	個別取組の達成状況及び今後の方向性					
	1		推進	協議会の	開催			10	40		生涯学習 した。現り	 の推進に 状維持。	関する事	項につい	 て審議		
	2	市民カレ	ッジの	D開催			4	18	48	30	各種講座を開催し、市民の多様な学習ニーズ に応える機会の提供を行った。現状維持。				ョニーズ 負持 。		
D	(3	学社融合	事業	Ē			į	51	51	50	新治小学校で観劇をし、地域の教育力の活性 化を図った。現状維持。 広報紙「ハローウィンドウ」の発行を通して、青						
〇(実施	4	体験活動 の運営	ボラ	ンティア活	動支援も	<u>z</u> ンター	27	72	272	266	広報紙「ノ 少年の奉 (年2回)。	仕活動•	体験活動				
他	(5)	ハロータワ	ウンロ	の発行				0	0	0	市民へ生 回)。現状	市民へ生涯学習情報の提供を行った(年3 回)。現状維持。			(年3		
	6	地域教育	力体	験活動推	進協議会	€の開催	(32	32	0	平成29年度を以って活動終了。平成30年度 の活動無し。終了。						
	7	生涯学習	学習・ボランティア活動の推進					13	13	13	茂原市体ターの活!	茂原市体験活動ボランティア活動支援セン ターの活動を支援した。現状維持。					
	8)						0	0	0							
	9)						0	0	0							
	Œ)	_					0	0	0							
	事業費計						45	56	456	383							

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・生涯学習推進協議会の開催(3/18) ・市民カレッジの開催(9/3、10/1、11/5、12/3、1/7、2/4、3/4) ・学社融合事業の実施(2/2) ・ハローウィンドウの発行(7/11、12/6) ・ハロータウンの発行(7/1、10/1、1/15)

				基本計画					
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	
1	01	01	01	生涯学習推進事業	9	05	01	02	生涯

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	05	01	02	生涯学習推進事業				

		•										
	30年度活動指標	『(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトス	カム)の達成状況							
	実施	ついては、9月から3月までの。 ウィンドウの発行部数 12,500		・市民カレッジの講座1回 し25人となった。	カレッジの講座1回あたりの参加人数が平成29年度より3人減り となった。							
	妥当性	性の評価とその理由	有効性	性の評価とその理由	効率性の評価とその理由							
	A:妥当である	各事業とも、市民の生涯学 習活動を推進するために必 要な事業であり、妥当であ る。		講座の開催や各種広報紙 の発行などを通じて多角的 に生涯学習の推進を行うこ とができており、有効であ る。	A:効率的である	市民カレッジについては講 座内容によっての参加者の 増減が小さくなり、効率的な 講座運営が図られている。						
	「情報の共	は有」の状況とその理由	「参加」	」の状況とその理由	「協働.	の状況とその理由						
	A:実現している	生涯学習ガイドブック・自主 グループー覧表等を作成	A:実現してい る	生涯学習推進協議会に際 し、市民が委員として生涯学 習の推進に関する審議をし ている。	A:実現している	ハロータウンの編集委員と して職員とボランティアが協 働して活動し、生涯学習情 報の提供に努めている。						
C H	所管による評価	とその理由、課題・問題点										
E C K	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	生涯学習に対する協議、情報		事業開催と各方向からの成り 次に応えられるよう、より多くの								
<u> </u>	企画政策課での	評価とその理由	面とその理由									
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)											
	政策調整会議で	の評価とその理由										
		WITIMIC (W 柱田										
	庁議における方	針										
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定							
A C T	・講座の開催回導 ・広報紙の発行			•講座の受講者数								
へ 改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	事業スケジュー							
改善)	学習活動参加者			・生涯学習推進協議会の ・市民カレッジの開催(全・学社融合事業の実施(・ハローウィンドウの発行	開催(年2回) 7回開催) 新治小学校で実が (年2回発行予定	 色予定)						

	基本計画							
章	章 節 項 細 実施計画事業名							
1	01	02	01	茂原市地域未来塾				

	予算科目						
I	款	項	目	事	事業名		
	9	05	01	13	地域未来塾事業		

実施計画整理番号						
101020101						
総合戦略 整理番号	0					

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N		学習が遅れがちの中学生に学習機会を提供し、学習習慣の確立と基礎 学力の定着を図る。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	市内2中学校を対象として地域未来塾を開講する。	東中学校区期間:8/20~1/26 長期休暇中及び毎週木・土曜日 計49回 南中学校区期間:8/20~1/26 長期休暇中及び毎週火・土曜日 計50回

		区分	単		H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	Ī	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	0	0	0	0	461	3	384	462	0	0	616	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	財	県補助	千円	0	0	0	0	307	2	255	307	0	0	409	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	154	1	29	155	0	0	207	0	0
	個知			内容			取 計画	費用(न 算		決算	個別」	取組の達成	技状況及び	今後の方「	句性	
	1	地域未来	:塾の	運営			52	0	461		384	東中学校 講した。拡	区で50回 太大。	、南中学	校区で54[回の開
	2	2 0		0	0		0									
D	3)						0	0		0					

実施 (5) 事業費計

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・東中学校区 期間:8/20~2/23 長期休暇中及び毎週木・土曜日 会場:豊田福祉センター 参加生徒数:3名 実施回数:50回 ・南中学校区 期間:8/20~2/26 長期休暇中及び毎週火・土曜日 会場:鶴枝公民館 参加生徒数:8名 実施回数:54回

				1 444 -									
				基本計画	予算科目								
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	田	事	事業名			
1	01	02	01	茂原市地域未来塾		9	05	01	13	地域未来塾事業			
30年	F度;	舌動	指標	(アウトブット)の達成状況				30年	F度F	成果指標(アウトカム)の達成状況			

	 			<u> </u>								
	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトス	カム)の達成状況							
		実施回数:50回 実施回数:54回		·東中学校区 参加生徒 ·南中学校区 参加生徒								
	妥当性	性の評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性	の評価とその理由						
	A.亚亚本文	県より補助を受け実施する 事業であり妥当である。	A:有効である	毎週開講することで学習習		費用は講師の謝礼及び最 低限の教科書等の消耗品 費のみであり、削減の余地 はない。						
	「情報の共	共有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由						
	C:実現の余地 がない	の余地 実施校区を限定している事 A:実		講師として市民が参加しており、運営方法についても意見を頂いている。	A:実現している	勉強法など、学習習慣の確 立に向けて参加生徒にアド バイスをしている。						
C H	所管による評価	とその理由、課題・問題点										
E C	A:十分な成果を	未来塾の運営は地元の元教 向上について、終了後のアン 伴う講師・会場の確保がある	ケート結果から									
	企画政策課での	政策課での評価とその理由										
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	達成度 生使の字省省慎の唯立及の字刀の回上に奇与してあり、一定の放朱が認められる。引き続き、字省境境の允美に会め 達成度 _{るものと} する										
	政策調整会議での評価とその理由											
	MAN IN THE AUTO CO.	大木町正 A R C V A T I III C C V 注 II										
	庁議における方法	針										
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定							
A C T	地域未来塾の実			参加生徒の出席率8割じ								
改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	令和元年度における事務事業スケジュール							
以善)	市内3中学校区			•東中学校区 期間:8/2% •南中学校区 期間:8/1%	・東中学校区 期間:8/22~2/1 計25回 ・南中学校区 期間:8/19~2/1 計25回 ・富士見中学校区 期間:8/22~2/8 計25回							

				基本計画
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

					予算科目
ĺ	款	項	目	事	事業名
ĺ	9	04	01	07	子育て支援事業

実施計画整理番号						
1020	102010201					
総合戦略 整理番号	0					

	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN		地域における子育て支援センターとして開かれた幼稚園づくりを推進する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
: 画)		公立幼稚園3園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。

		区分	単位		H29年度		ŀ	H30年度		,	令和元年度	Ę		令和2年度	
		巨刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	- E	事業費	千円	320	320	320	243	240	23	34 240	0	0	240	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財厂源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0			0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	320	320	320	243	240	23	240	0	0	240	0	0
	個別 取組			内容			取 計画	!組に係る 予		·円) 決 算	個別	取組の達成	龙状況及び	「今後の方	向性
	1	ふれあい	広場	·事業			24	3	240	234	地域の二 支援を実	.一ズに応 施した。	え、地域(こ根ざした	:子育て
	2							0	0	0					
D	3						1	0	0	0					
〇(実施	4							0	0	0					
施	5							0	0	0					
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	0							n	٥	0					

事業費計

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

公立幼稚園3園において遊具やおもちゃで遊んだり、各園独自の内容による「わらべ歌」「絵本の読み聞かせ」「人形劇」などを実施した。

					基本計画						予算科目			整理番号
	章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	目	事		事業名		
	1	02	01	02	子育て支援事業		9	04	01	07	子育て支援事業	: :		102010201
	30年	-度清	舌動	指標	(アウトプット)の達成状況				30年	₣度月	或果指標(アウトカ	カム)の達成状況		
	捐催	き 回 娄	数 泵	正べ1	18回(6回/園)						∠未就園児・保護 0人、五郷128人			
ŀ			妥	当性	の評価とその理由		効性	生の	評価	とそ	の理由	効率性	の評価	面とその理由
	子育てふれあい広場や子育 て相談などの子育て支援事 業は、基本計画にも位置づ けられている。										て支援に対する ごている。	A:効率的である	象とし	園児とその保護者を対 て、効率的な実施に ている。
ľ		Γ¢	青報	の共	(有」の状況とその理由	Γş	参加	<u>」</u> の;	状況	とそ	の理由	「協働」	」の状況	兄とその理由
ľ			選現に向け 広報、各幼稚園で事業実施 の周知をしている。 A:実現し る						育てホ		養者は、気軽に をすることができ	C:実現の余地 がない		が行う子育て世帯のた 事業である。
	折管	まによ	くる言	平価。	とその理由、課題・問題点			_						
ı	挙け	-分な げた(: 以上	達成		各公立幼稚園において、未就	t園児のため)の道	遊びが	場や	保護	者同士の交流の	場を提供すること	こができ	きた。
	企画	」政策	 表課	での	評価とその理由									
1	挙け	·分な fた() 以上	達成		幼児期の子どもを持つ保護者 成果があったものと認められ	針に対し、交流 る。引き続き	流の 家屋	場 <i>の</i> 匡教 i)提供 育に「	共と家 関す	₹庭教育に関する る情報提供と子₹	が悩みの解消に繋 育て支援の充実に	がる取 こ努め <i>?</i>	双り組みとして一定の るものとする。
	政策	き調素	隆会	議で	の評価とその理由									
	宁議	美にお	らける	る方質	針									
T	令和]元年	丰度	活動	指標(アウトプット)の設定				令和	1元4	年度成果指標(ア	ウトカム)の設定		
、 ふれあい広場の開催回数。 3									参加	口した	∠未就園児・保護	者の数。		
į	令和]元年	丰度	にお	ける具体的な目標				令和	0元4	丰度における事務	8事業スケジュー/	ル	
	令和元年度における具体的な目標 公立幼稚園3園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の ふれあい広場を開催する予定。							容で	供す	する。		ための遊び場や 力関係を形成する		肯同士の交流の場を提

基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	03	01	01	中学校施設整備事業				

				予算科目
款	項	目	事	事業名
9	03	03	01	中学校施設整備事業

実施計画整理番号						
103010102						
総合戦略 0 8 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2						

\neg	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	老朽化の激しい学校施設について、大規模改造工事を実施し、学習空間 の改善を図る。	中学校施設の大規模改造工事
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	老朽化の著しい富士見中学校の大規模改造工事を実施するため、設計業 務委託を締結する。	冨士見中学校大規模改造工事設計業務委託の締結

		5 0	単		H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度	
		区分	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	0	0	0	0	34,560	34,56	628,276	0	0	402,688	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 158,299	0	0	141,406	0	0
	財源	県補助	千円	0			0	0		0 0		0	0	0	0
	内	市債	千円	0			0	24,000		-	.	0			_
	訳	その他	千円	0			0	0		0 10,000	 	0	,		_
		一般財源	千円	0	0	0	0	10,560			0	0	35,582	0	0
	個別 取約			内容			計画	双組に係る 予		円) 決 算	個別]	取組の達	成状況及び	「今後の方	向性
	1	中学校大	規模	改造工事			32,01	1 34	4,560	34,560	大規模改造 模改造工	造工事の言 事に向け糾	设計業務委 迷続して事業	託を実施し 業を進めて	ンた。大規 いく。
	2)						0	0	0					
D	3)						0	0	0					
〇(実施	4)						0	0	0					
施)	(5))						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10)	_					0	0	0					

32,011 34,560

34,560

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

事業費計

老朽化の著しい冨士見中学校の大規模改造工事を実施するため、設計業務委託契約を締結した。

基本計画									
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	03	01	01	中学校施設整備事業					

予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	03	03	01	中学校施設整備事業					

103010102

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 設計業務委託を実施し、学習空間等の改善と建物の長寿命化、教育 外部(屋上防水)及び内部(床壁天井、トイレ)の大規模改修、空 環境の充実を図るための準備に着手できた。 調設備整備を実施するための設計業務を実施した。 ·富士見中学校大規模改造工事設計業務委託1件 34,560千円 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 国の交付金や起債を活用する 老朽化した学校施設を外 大規模改造工事を実施する ことにより、財政負担を軽減で ことにより、学校施設の維持 管理が充実し、子ども達の B:やや効率的 部・内部とも整備し、子ども きる。しかし、物価上昇などの A:妥当である A:有効である たちの教育環境の充実を図 である コスト増の要因や現在の財政 状況から一部実施できないエ る事業である。 安全性の確保が図れる。 事箇所がある。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 学校の先生方と十分な協議 学校の先生方と工事期間 B:実現に向け を実施。 子ども達や先生方に対して B:実現に向け A:実現してい 中の学校運営についてなど 改修に向けてのアンケートを て取り組んでい 工事の際には学校を通して て取り組んでい の問題解決に取り組んでい 保護者などへお知らせを行 実施した。 る る。 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н E A:十分な成果を 年度当初より設計業務委託契約に向け準備を進め、4月中に富士見中学校大規模改造工事設計業務委託の契約を締 С 挙げた(達成度 結、翌年3月に業務を完了させた。 K 8割以上) 評 価 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 設計業務委託の契約及び設計業務を完了していることから、当初の目的は達成していると認められる。引き続き、大規 挙げた(達成度 模改造工事に向けて、事業を継続するものとし、教育環境の整備に努めるものとする。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針 令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

I期工事 工事進捗率 令和元年度における具体的な目標 令和元年度における事務事業スケジュール ・冨士見中学校大規模改造工事に伴う仮設校舎建設の長期継続契約を 仮設校舎建設

改 善

- 冨士見中学校駐車場整備の実施
- |冨士見中学校大規模改造工事(Ⅰ期)の実施
- 学校協議

Α С Т

保護者への周知を図る

- 締結する。
- ・ 富士見中学校の駐車場を整備する。
- ·冨士見中学校大規模改造工事の契約を締結し、I 期工事に着手する。
- 継続して学校との協議に努める。
- ・保護者に対して工事へのお知らせを通知する。

基本計画								
章	節項細			実施計画事業名				
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業				

予算科目							
	款	項	目	事	事業名		
	9	02	02	04	学校教育支援事業		

実施計画整理番号							
103030101							
総合戦略 整理番号	0						

	事務事業	の概要				
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)				
	学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育 を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。				
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール				
画						

	区分			H29年度			H30年度			令和元年度	Ę		令和2年度	
	Б Л	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事	業費	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,1	92 4,286	0	0	4,286	0	0
	国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
v 3	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 (0	0	0	0	0
原 内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 (0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
-	一般財源	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,1	92 4,286	0	0	4,286	0	0
個別 取組		内容					取組に係る費用(千円) 計画 予算 ジ			個別取組の達成状況及び今後の方向性				
1	心の教室相談員の配置						6	916	児童・教職員の相談にのることでストレスか 911 ぎ、心にゆとりが持てた。今後はスクールカ					

	旭加	内容		コードの貝川(個別取組の達成状況及び今後の方向性		
1	取組		計画	予算	決算	Environment VEIN BRIDGE OF THE PROPERTY OF THE		
	1	心の教室相談員の配置	916	916	911	児童・教職員の相談にのることでストレスが和らぎ、心にゆとりが持てた。今後はスクールカウンセラー未配置校全校に配置できることが望ましい。		
	2	学校支援ボランティアの活用	130	130		学校内外を支援することで児童・教職員が円滑に 学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続 する必要性がある。		
D O	3	臨時的任用講師の配置	3,263	3,278	3,163	複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。 講師の配置は、毎年見直しが必要である。		
(実施	4		0	0	0			
\smile	5		0	0	0			
	6		0	0	0			
	7		0	0	0			
	8		0	0	0			
	9		0	0	0			
	10		0	0	_			
1		事業費計	4,309	4,324	4,192			

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・心の教室相談員を小学校4校に週1~2回(年224時間)配置。 ・学校支援ポランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール、図書の読み聞かせ等で全14校において活用。 ・複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。

				基本計画	
章	節	項	細	実施計画事業名	Tille
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業	

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定

予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	02	02	04	学校教育支援事業					

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・児童のストレス緩和のため、相談員を4校に1名ずつ配置した。 ・4校で約1,170件/年の相談を受け、児童のストレス緩和を支援し た。 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 円滑な学校教育を推進する 心の教室相談員の人数と配 ボランティアの活用等により B:やや有効で A:妥当である ために必要な支援であり、 置について見直しの余地が A:効率的である 効率的な事業実施に努め ある 妥当である。 ある。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 B:実現に向け 学校支援ボランティアの意 B:実現に向け 学校支援ボランティアの意 個人情報を取り扱うため難し C:実現の余地 見を取り入れながら、問題 て取り組んでい て取り組んで 見を取り入れる機会を設け がない い。 いる ている。 解決に取り組んでいる。 る 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н E ・相談員の配置やボランティアの活用、また市費による臨時的任用講師の配置により学校における教育環境の整備を図 С A:十分な成果を ることができ、児童や教職員の心的・肉体的負担が軽減された。 K 挙げた(達成度 ・心の教室相談員は、県事業のスクールカウンセラーと合わせてもまだ全校に配置されていないため、配置について見 8割以上) 直しの余地がある。 評 価 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 各取り組みにより学校環境の整備に一定の成果があったものと認められる。引き続き、相談員の適正な配置の検討や、 挙げた(達成度 ボランティアの活用等、学校環境の向上に努めるものとする。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針

児童のストレス緩和のため、第三者の相談員配置数。 ・授業支援や交通指導支援等のボランティア登録人数と活動人 ・児童のストレスを緩和する。(相談回数、相談者数) ・解消された複式学級の数。 ・児童数の減少により1学年1人の教員配置のない学校について、 С 市費による講師を配置する。 令和元年度における具体的な目標 令和元年度における事務事業スケジュール 改 善 ・心の教室相談員の配置。 ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・市費による臨時的任用講師の配置。 ・複式学級を解消する。

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

			基本計画	
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

H29年度

	予算科目										
赤	款	項	目	事	事業名						
,	9	03	02	04	学校教育支援事業						

令和元年度

実施計画整理番号									
103030102									
総合戦略 整理番号	0								

令和2年度

\neg	事務事業	の概要					
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)					
	学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育 を推進する。	^育 ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。					
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール					
: 画)	・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。	・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおく。 ・学校支援ボランティアの活用と各種競技大会及びコンクールへの参加 支援。					

H30年度

		区分		-12 <i>//</i>					-1						
			位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	2,108	2,108	2,079	2,108	2,108	2,09	8 2,178	0	0	2,178	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	132	0	132		0 0	0	0	132	0	0
		一般財源	千円	2,108	2,108	1,947	2,108	1,976	2,09	8 2,178	0	0	2,046	0	0
	個別			内容				双組に係る			個別	取組の達り	⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒	「今後の方	向性
	取約	祖		гущ			計画	予	算	決算					
	1	適応指導	圏の運営			1,73	0	1,730	1,724	不登校児 学先の決 していない 要性がある	定や学校作 児童生徒	学校復帰支 复帰を果た もいるため	援を図り、 した。まだ。 、今後も継	6名が進 学校復帰 続する必	
	2	学校支担	爰ボラ	ンティアの)活用		2	.8	28	24	学校内外な 学校生活な する必要性	を送れるよ			
D 0 ((3)	〉 各種競技	支大会	を及びコン・	クール参加	加支援	35	0	350	350	大会等に また、継続 を図った。	参加するこ することで	とで一人- ぎ個の伸長	-人の個を と学習意欲	活かし、 マの向上
(実施)	4)						0	0	0					
	(5))						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10	0						0	0	0					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

事業費計

・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおき、計26名の児童生徒が在籍し、6名が進学先の決定や学校復帰を果たした。・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール等に活用。

2,108

2,098

2,108

	平成30年度 事務事業評価シート													
				基本計画						予算科目			整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	目	事	<u> </u>	事業名			
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業		9	03	02	04	学校教育支援事	業		103030102	
30	年度	活動	指標	(アウトプット)の達成状況	·			30年	F度/	成果指標(アウト)	カム)の達成状況			
	適応打 に会等	図られ。	.、6名が学校復帰等											
		妥	·当性	の評価とその理由	1	有効性	生の詞	评価	とそ	の理由	効率性	の評価	晒とその理由	
A :	妥当	であ	3	円滑な学校教育を推進する ために必要な支援であり、 妥当である。	A:有効であ	生物元本工				室の入級児童 リ、指導員の適 置に見直しの余	A:効率的である		ティアの活用等により りな事業実施に努め	
	Ī	情報	の井	(有」の状況とその理由	Γ	「参加」の状況とその理由 「協働」の:							兄とその理由	
	実現ない	の余	地	個人 有報を取り扱つ/こを)難し	B:実現に向 て取り組ん いる	っで 見を取り入れる機会を設け					B:実現に向け て取り組んでい る	見を取	を援ボランティアの意 なり入れながら、問題 こ取り組んでいる。	
所	管に	よる	评価。	とその理由、課題・問題点										
挙		(達月		各学校における教育環境の動た。しかし、児童生徒側のニーの見直しも必要である。										
企	画政	策課	での	評価とその理由										
挙		な成: (達原 ヒ)		各取り組みにより学校環境の ボランティアの活用等、学校野							。引き続き、相談	員の適	直正な配置の検討や、	
政	策調	整会	議で	の評価とその理由										

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

令和元年度における事務事業スケジュール

・生徒のストレスを緩和する。・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。

・生徒のストレス緩和と学校復帰。

・大会等への参加人数。

庁議における方針

C 大会等への参加支援。

A 数。

Т

改善

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定

令和元年度における具体的な目標

・適応指導教室の継続的な設置。

・学校支援ボランティアの活用。・大会等への参加支援。

・適応指導教室の設置数、受け入れ人数。・授業支援や交通指導支援等のボランティア登録人数と活動人

	基本計画										
章 節 項 細 実施計画事業名											
				 (小)国際教育推進事業							

予算科目										
	款	項	目	事	事業名					
	9	02	02	06	国際教育推進事業					

実施計画整理番号								
103030301								
総合戦略 整理番号	22303							

	事務事業	の概要					
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)					
P L A N	児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能 力の素地を身に付けられるようにする。	ELTの派遣。					
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール					
画)	全小学校の全児童が等しくELTと触れ合える機会を提供する。	・ELTの民間委託により、3名を全小学校に派遣する。 ・業務委託によりELTを活用した教員の指導力向上のための研修を実 施する。					

		区分	単		H29年度			H30年度			4	令和元年度	:	,	令和2年度	
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算		計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,4	22	29,430	0	0	29,430	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	財	県補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,4	22	29,430	0	0	29,430	0	0
	個別 取組		内容					双組に係る 予			 決算	個別取組の達成状況及び今後の方向性				
	1	ELTの派	遣				12,96	60 1 1	,423		11,422	3名のELT 実を図った 業時数の ¹	を全小学だ。新学習打	校に派遣し 旨導要領の 、ELTの配	、外国語活)先行実施! 置増が望る	活動の充 に伴う授 まれる。
	2							0	0		0					
D O	3							0	0		0					
(実施	4							0	0		0	0				
У В	5				0	0		0								
	6						0		0		0					
	7	-						0	0		0					

12,960 11,423 11,422

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

事業費計

3名のELTを全小学校に派遣した。

章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業	9	02	02

	予算科目								
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	02	02	06	国際教育推進事業					

				•											
	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウト	トカム)の達成状況										
	ELTを年間37回	派遣した。		各小学校に、ELT1人に	つき年37日派遣	し、週28時間配置した。									
	妥当性	きの評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	評価とその理由 効率性の評価とその理由										
		社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。		ELTによる授業は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A.劝衷的"女女 Z	見聞表記により ラフトの判									
	「情報の共	も有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働	」の状況とその理由									
		広報等で周知した。	C:実現の余地	行政のみでしか実現できな い事業。		行政のみでしか実現できない事業。									
С	所管に上ろ証価	とその理由 理題・問題占													
E C K	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)														
)	企画政策課での	評価とその理由													
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	を													
	み 第 調 教 会 議 で	女策調整会議での評価とその理由													
	以水响正五哦(の計画とその生出													
	庁議における方法	針													
	7] 1132 (~00.17 (0.75)	7 公刀里													
	今和元年度迁赴]指標(アウトプット)の設定		全和元年度成里指煙(アウトカム)の設定										
A C T		画及び要望にそってALTを派え	遣する。(回数)		令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 ・全小学校の児童が等しくALTと触れ合う機会の提供。(授業時間数)										
(;	今和一年中にお	ける目体的か日毎			敦重 要ったご−	11.									
改善	ア州兀牛皮にお	ける具体的な目標		令和元年度における事	労争未入ケンユー										
善)		託により、6名を全小学校に派 教員の指導力向上のための		・全小学校の児童が等し	しくALTと触れ合え	_る機会を提供する。									

	基本計画									
章	節	項	細	実施計画事業名						
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業						

	予算科目								
崇	欠	項	目	事	事業名				
ć)	03	02	06	国際教育推進事業				

実施計画整理番号						
103030302						
総合戦略 整理番号	22303					

	事務事業	の概要
1	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
Р	生徒が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。 生徒に外国の文化、風土、習慣等を自らの肌で感じさせ、国際的視野を広めさせるとともに語学力の向上を図る。	ELTの派遣。 中学生を海外に派遣し、ホームステイによる異文化交流を図る。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒がホームステイや語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に 付けることができるよう環境を整える。	・ELTを民間に委託し、4名を全中学校に派遣する。 ・海外派遣(オーストラリア)に27名の中学生を派遣する。

		区分			H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
	事業費		千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	0	0	23,320	0	0	
		国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	内_	市債	千円	0		· ·	0		0	0		Ţ.	0			
	訳	その他	千円	0			0		· ·		ı	0	0		0	
		一般財源	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	0	0	23,320	0	0	
	個別 取組			内容			計画	取組に係る 予	費用(千円 算]) 決 算	個別	取組の達用	成状況及び	が今後の方	向性	
	1	ELTの派遣					17,30	D5 1	5,255	15,239	を通じコミ	ュニケーシ ィブ・スピー	ョン能力の	、実践的勢)基礎を養っ 用等指導体	った。今後	
	2	中学生の	海外	派遣			3,70	28名の中学生をオーストラリン はホームステイを通じて異文 は 18 日本 18			じて異文化 けた青少年	や習慣を	学んだ。			
ОО (3							0	0	0						
実施	4							0 0 0								
	5							0	0	0						
	6							0	0	0						
	7							0	0	0						

21,005

18,955

18,939

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・4名のELTを全中学校に派遣した。 ・海外研修(オーストラリア)に28名の生徒を派遣した。

事業費計

				基本計画					予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	皿	事	事業名
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業	9	03	02	06	国際教育推進事業

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・ELTを年間最大120回派遣した。 ・ELTを年間最大120日配置し、6時間/日授業を行った。 ・全中学校の2・3年生を対象に海外派遣研修を実施した。(年1 ・28名の中学生を海外に派遣し、異国の生活習慣や文化について理 回、10日間) 解を深めた。 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 ELTによる授業や海外派遣 社会の急激な変化の中で、 は、コミュニケーションと国際 民間委託により、コストの削 A:妥当である 国際化に対応した教育の充 A:有効である A:効率的である 理解の機会を直接与える有 減を図った。 実が必要であるため。 効な手段である。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 A:実現している 広報等で周知した。 がない い事業。 がない い事業。 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н E A:十分な成果を 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、異文化交流を通じて国際理解を深めることができた。また、海外派遣 С 挙げた(達成度 により国際的な視野を広めることができた。 K 8割以上) 評 価 企画政策課での評価とその理由 **A:十分な成果を**|児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き **挙げた(達成度 |ELTの活用を推進するものとする。また、海外派遣事業についても、異文化に触れ、国際感覚を身に付ける環境を整備** 8割以上) するものとする。 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針 令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 ・全中学校の生徒が等しくALTと触れ合う機会の提供。(授業時間数)

数)

令和元年度における具体的な目標

C

改善

令和元年度における事務事業スケジュール

- ・ALTの民間委託により、4名を全中学校に派遣する。
- ・海外派遣で、28名の中学生をオーストラリアに派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。

・学校の授業計画及び要望にそってALTを派遣する。(回数)

・中学2・3年生を対象に海外派遣を実施する。(派遣日数)

- ・全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習
- ・生徒が海外での学校生活やホームスティを通じて外国の文化や省 慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。

・海外派遣を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付ける。(派遣人

	基本計画							
章	Ē	節	項	細	実施計画事業名			
1		03	03	06	(小)総合学習推進事業			

H29年度

予算科目							
款	項	目	事	事業名			
9	02	02	03	総合学習推進事業			

令和元年度

実施計画整理番号							
10303	103030601						
総合戦略 整理番号	0						

令和2年度

\neg	事務事業	の概要
- 1	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAZ (体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした 教育を推進する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。

H30年度

		区分														
		E 71		位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	ŧ	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	2,900	2,84	2,801	0	0	2,801	0	0
		国補	助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財	県補	助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	源内	市	債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その	他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源 千円 3,184 3,840 3,632						4,333	2,900	2,84	2,801	0	0	2,801	0	0
	個知				内容			計画	双組に係る 予	費用(千) 算	円) 決 算	個別	取組の達用	式状況及び	「今後の方	向性
	1	総合	学習	の実	施			2,79	0 2	2,790		各学校で 工夫を図				
	2	副請	₹本「∤	ったし	たちの茂	原」の活	用	1,52	.8	110	110	社会科のももっとも有る	学習の中で 効な資料で	ご3・4年生だ ごあり、今後	が郷土茂原 とも活用し ^っ	を知る ていく。
D O	3	「茂』	原学」	検討	委員会の	設置			0	0	0	茂原学はは 施している 会設置に同	。今後は	学習を継続	しながら、	
(実施	4								0	0	0					
	(5)								0	0	0					
	6								0	0	0					
	7								0	0	0					
	8								0	0	0					
	9								0	0	0					
	Œ								0	0	0					
				事	事業費計			4,31	8 2	2,900	2,848					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、児童の「生きる力」を育む教育を推進した。
・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

				基本計画					予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業	9	02	02	03	総合学習推進事業

	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウト	カム)の達成状況					
		習成果があげられるよう、各学 内な学習を行った。	や校が選んだ特定	分全小学校全児童が受講り	た。					
	妥当性	生の評価とその理由	有効性	の評価とその理由	効率性	の評価とその理由				
	A:妥当である	学習指導要領に定められて	A:有効である	予算措置をすることにより、 個々を生かす教育の推進に 寄与した。		消耗品や備品の購入を精				
	「悟報の出	も、「大力」の状況とその理由	「糸加」	の状況とその理由	「拉桶	」の状況とその理由				
0	B:実現に向け	確立していないため、積極 的な公開には至っていな い。	A:実現してい	<u>の状況とその埋田</u> 職場体験・市内見学等で市 民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。				
С	所管による評価。	とその理由、課題・問題点								
:ECK(評価	A:十分な成果を		「生きる力」を育む エ夫を生かした教	ご教育の推進という目的に資 育活動を実施する必要があ ^え	するものであり、 る。	一定の成果があったものと				
)	企画政策課での	評価とその理由								
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	児童の個々を生かす体験学	習により、児童が自ら学び考える力の育成に成果が認められる。引き続き、各学校で創意 カ」を育む教育を推進するものとする。							
	政策調整会議で	の評価とその理由								
	2701.141.122.24.132									
	庁議における方	針								
	今和元年度活動]指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定					
A C T		習成果があげられるよう、各学	₽校が選んだ特定							
(改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	8事業スケジュー	ル				
以善)	「総合的な学習の	の時間」がより効果的に運用さ	れるよう、継続し							
	予算支援を行う。									

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業				

	予算科目							
款	Ţ	頁	目	事	事業名			
9	0	3	02	03	総合学習推進事業			

実施計画整理番号						
10303	103030602					
総合戦略 整理番号	0					

П	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAZ		体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした 教育を推進する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。

		区分	単位		H29年度			H30年度		,	令和元年度	Į.		令和2年度	
		区万	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,33	1,401	0	0	1,201	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,33	1,401	0	0	1,201	0	0
	個別 取約			内容			取 計画	双組に係る 予		·円) 決 算	個別	取組の達成	並状況及び	「今後の方	句性
		Ĭ.	の実				取 計画 1,40	予			各学校で		学習の時	ド今後の方 間を使い	
	取糸	総合学習	の実				計画 1,40	予	算	決算	各学校で	総合的な	学習の時		
D	取約	総合学習	の実				計画 1,40	予. 11 1	算 ,401	決算 1,334	各学校で	総合的な	学習の時		
DO(実施	取約 (1) (2)	総合学習	の実				計画 1,40	予 01 1 0	算 ,401 0	決算 1,334 0	各学校で工夫を図	総合的な	学習の時		

1,401 1,334 事業費計 1,401

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、生徒の「生きる力」を育む教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

				基本計画					予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業	9	03	02	03	総合学習推進事業

整理番号

	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトオ	カム)の達成状況	
		習成果があげられるよう、各学 りな学習を行った。	や校が選んだ特定	分全中学校全生徒が受講し	ıt:.	
	妥当性	きの評価とその理由	有効性	の評価とその理由	効率性	の評価とその理由
		学習指導要領に定められて	A:有効である 1	予算措置をすることにより、 個々を生かす教育の推進に 寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精
	「情報の共	(有」の状況とその理由	「参加」	の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由
	B:実現に向け	確立していないため、積極 的な公開には至っていな い。		職場体験・市内見学等で市 民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
С	正等に トス 評価	とその理由、課題・問題点				
E C	所官による計画 A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	とての壁田、味趣・问題点 いずれの取り組みも、生徒の 認められる。引き続き、創意こ	「生きる力」を育む エ夫を生かした教	♪教育の推進という目的に資 育活動を実施する必要がある	するものであり、- る。	一定の成果があったものと
<u>ш</u>	企画政策課での	評価とその理由				
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	生徒の個々を生かす体験学工夫を図り、生徒の「生きる」			 文果が認められる	。引き続き、各学校で創意
	政策調整会議で	の評価とその理由				
	以水则正五哦(の計画とその注出				
	庁議における方	針				
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定	
A C T		習成果があげられるよう、各学	や校が選んだ特定			
改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	8事業スケジュー	
善善	1- 1875 1 121 -00	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		15 1670 1 121-0017 W 717		

生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。

「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して 予算支援を行う。

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業				

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業				

実施計画	整理番号				
103030603					
総合戦略 整理番号	22303				

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L 4 Z (学校図書館の整備・充実を図り、児童・生徒の読書活動を推進する。	・専任の非常勤学校司書を配置する。 ・学校図書館の蔵書のデータベース化を図る。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施し、学校司書を配置できる 環境整備を行う。	・学校司書1名を兼務で2小学校に配置する。 ・蔵書数の多い小学校から順次、請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施する。 ・25年来使用してきた学校図書館管理システムの故障により、システムを更新し、新たに蔵書のデータベース化を行う。(6月補正対応)

	区分		単		H29年度			H30年度			令和元年度	Ę	令和2年度		
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,97	8 4,237	0	0	4,240	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0			0	0		0 0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	_		0	0		0 0		_	_	_	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,97	4,237	0	0	4,240	0	0
	個知			内容			計画	奴組に係る 予	費用(千) 算	円) 決算	個別	取組の達	成状況及び	ぶ今後の方	向性
	1	学校司書	書の配	置			2,40	0	3,102	3,066	4名の学校 学習活動の の拡充が	の支援を行 望まれる。	うった。今後	後、学校司	書配置校
	2	学校図記理	宇館管	理システ	ム機器の	維持管	39	8	1,536	1,274	通常の蔵 を有するシ 図れるよう まれる。	書管理機能 システムで いになった。	能だけでなっ あるため、 同システ <i>』</i>	く、豊富な村 図書の有効 公導入校の	検索機能 カ活用が 対拡充が望
D O	3	学校図書	書の整	登備				0	1,642	1,638	学许回事	館の環境 点検等を	竟整備の名 行い環境	を実を図っ 整備を行う	た。今後 う。
(実施	4							0	0	0					
)	(5)							0	0	0					
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	8							0	0	0					
	9							0	0	0					
	Œ							0	0	0					
			Ę	事業費計			2,79	8	6,280	5,978					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・4名の非常勤学校司書を6小学校に配置した。(2名が兼務) ・学校司書情報交換会、学校図書館・市立図書館連絡会議、ボランティア研修会等開催した。 ・請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施した。

	基本計画									
章	節	項 細 実施計画事業名								
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業						

	予算科目								
款	項	Ⅲ	目 事 事業名						
9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業					

整理番号 103030603

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

・非常勤の学校司書4名を6小学校に配置した(2名が2校ずつ兼 務)。

・4小学校の請求記号ラベル貼り替え(29,000冊)と配架修正 (31,000冊)を実施し、学校司書を配置できる環境整備を行った。 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

・学校司書により学校図書館の環境整備が図られただけでなく、読書 指導や授業支援により、児童と教職員の学校図書館を利用する機会 が増えた。

モデル校以外にも学校司書を配置できる小学校が増えた。

	妥当性	生の評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性	の評価とその理由		
	A:妥当である	活字離れによる学力の低下が指摘されている中、読書活動の推進が必要であるため。	A:有効である	学習指導要領でも学校図書 館の計画的な利用が位置付 けられているため。		業者委託による学校司書 の配置やデータベース化よ りも安価であるため。		
	「情報の判	も有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	2018年8月に「第三次茂原市子ども読書活動推進計画」をHPで公表済み。		行政のみでしか実現できな い事業。	C:実現の余地 がない	行政のみでしか実現できな い事業。		
СН	所管による評価	とその理由、課題・問題点						
Ε								

8割以上)

評 価

善

|A:十分な成果を||学校司書の配置により、児童・教職員が学校図書館や資料を利活用する機会が増えた。また、蔵書のデータベース化に | 挙げた(達成度 より、学校図書館の適正な管理・運営が可能となった。

<課題>学校司書未配置校及び新学校図書館管理システム未導入校(既存のデータベース化校も含む。)の解消

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

学校図書館の整備充実が図られたことにより、児童の読書活動が推進されたものと認められる。引き続き、学校図書館 の適正な管理・運営に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 学校図書館での貸出冊数。 ・学校司書の配置校数。 ・学校図書館で授業を行った延べ学級数。 ・蔵書の請求記号ラベルの貼り替えと配架修正の実施校数。 学校司書が行った各種読書指導と授業支援実施数。 С Т

令和元年度における具体的な目標 改

令和元年度における事務事業スケジュール

・学校司書の配置校を増やし、教職員の読書指導や授業の支援

・請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施し、学校司書を配 置できる環境整備を行う。

学校司書が、教職員の読書指導や授業支援に必要な蔵書の準備な

・全小学校の請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を完了する。

					基本計画
1	章	節	項	細	実施計画事業名
	1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目									
款	項	i 目 事 事業名							
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業					

実施計画	整理番号				
103040101					
総合戦略 整理番号	0				

\neg		の無重
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様に する。	特別支援教育支援員を配置する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応 じたサポートを行う。

		区分		単		H29年度			H30年度			令和元年度	Ę		令和2年度	
		区刀		位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費		千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	0	0	26,128	0	0
		国補助	л -	千円	0	0	0	0	0	C	0	0	0	0	0	0
	財	県補助	л -	千円	0	0	0	0	0	C	0	0	0	0	0	0
	源 内 _	市债	į.	千円	0	0	0	0	0	C	0	0	0	0	0	0
	訳	その他	<u>h</u> :	千円	0	0	0	0	0	C	0	0	0	0	0	0
		一般財	源 :	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	0	0	26,128	0	0
	個別 取組				内容			計画	双組に係る 予		決算				「今後の方	
	1	特別3	支援教	教育	支援員の	配置		20,50)6 2 [°]	1,578	21,189	支援員を配 今後も状況	記置し、障 況を把握し	害に応じた ながら配置	サポートを 置を検討して	行った。 こいく。
	2								0	0	0					
D	3								0	0	0					
〇(実施	4								0	0	0					
施)	5								0	0	0					
	6								0	0	0					
	7								0	0	0					
	0								_							

 8
 0
 0
 0

 9
 0
 0
 0

 0
 0
 0
 0

 事業費計
 20,506
 21,578
 21,189

 平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する児童のいる学校に支援員(18名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

	基本計画									
章	節	項	実施計画事業名							
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業						

				予算科目				
款	項	Ⅲ	事事業名					
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業				

	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトス	カム)の達成状況						
	支援員を適正に	配置した。(18名)		各校1名以上の支援員を	小を除く)						
		の評価とその理由	有効性	性の評価とその理由	効率性	の評価とその理由					
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体 となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより 適切な支援ができるため有 効。	C:あまり効率的 ではない	支援員のニーズが高まって いるため、コストの増加が 見込まれる。					
	「情報のサ	有」の状況とその理由	「糸加	」の状況とその理由	「拉働	」の状況とその理由					
		教育委員会の点検・評価報 告書がHPで公表されてい る。	C:実現の余地	行政のみでしか実現できな い事業。	C:実現の余地 がない	行政のみでしか実現できない事業。					
С	正等に トス 証価	とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を										
)	企画政策課での評価とその理由										
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	- 東土塚田寺にサナス党羽は明しいる日的に多まえたのでもは、一堂のは用がちったものし羽められて、引き結ち、第二か									
	政策調整会議での評価とその理由										
	以水则正五贼(での評価とての埋出									
	庁議における方気	\$ ∔									
	71 1921 - 001 7 00 7 1	7 計									
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定						
		THIS (F FIF FI / VFIENCE		1-18/3 X/X/X/10/X(/	7.7.7. Z						
A C T	支援員の適正配	置。(配置数)		各校1名以上の配置。(業	各校1名以上の配置。(新治小を除く)						
改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	8事業スケジュー	ル					
改善)		童のいる学校に対して支援員	を適正配置し、随	* ±	当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。						

				基本計画		
章	章 節 項 細 実施計画事業名					
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業		

	予算科目						
款	項	目	事	事業名			
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業			

実施計画整理番号						
10304	10102					
総合戦略 整理番号	0					

\neg	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様に する。	特別支援教育支援員を配置する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応 じたサポートを行う。

		区分	単	H29年度				H30年度		-	令和元年度	Ę	4	令和2年度	
	区刀		位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	朞	業費	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,47	4,592	0	0	4,592	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	C
ı		県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	C
	ᅛᆫ	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	C
		一般財源	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,47	4,592	0	0	4,592	0	C
Ī	個別 取組 内容					計画	双組に係る 予		円) 決 算	個別取組の達成状況及び今後の方向性					
	1	特別支援	教育	支援員の	配置		4,74	ļ9 <i>4</i>	1,761	4,478	支援員を配 今後も状況	配置し、障害兄を把握しな	害に応じた [・] ながら配置	サポートを を検討して	行った。 いく。
	2							0	0 0						
D O	3							0	0						
(実施	4							0 0		0					
心	5							0	0	0					
	6)							0	0	0					

4,478 事業費計 4,749 4,761

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する生徒のいる学校に支援員(3名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業	9	03	02	07	特別3

				予算科目
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

103040102

	30年度活動指標	(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトオ	カム)の達成状況							
	支援員を適正に	配置した。(3名)		3校に支援員を配置した。	3校に支援員を配置した。							
	妥当性	の評価とその理由	有効性	きの評価とその理由	効率性の評価とその理由							
		学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体 となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより 適切な支援ができるため有 効。	C:あまり効率的 ではない	支援員のニーズが高まって いるため、コストの増加が 見込まれる。						
	「悟報の#	(有」の状況とその理由	「糸加	」の状況とその理由	「拉桶	」の状況とその理由						
0	C:実現の余地	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地		C:実現の余地 がない	行政のみでしか実現できない事業。						
С	所管による評価.	とその理由、課題・問題点										
HECK(評価	A:十分な成果を	支援が必要な生徒に対し、適切な対応を行うことができた。										
)	企画政策課での	での評価とその理由										
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)											
	政策調整会議での評価とその理由											
	以水明正五成	:の計画とての理由										
	庁議における方法	<u></u>										
	71 B#X (~0317 07)											
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定							
	17 1870 1 1久/山到	THIS (F FIF FI / VFIENCE		1-18/3 (X/X/X)11/3/(/	7.7.7. Z							
A C T	支援員の適正配	置。(配置数)		支援員の配置数。	支援員の配置数。							
つ改	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	8事業スケジュー	JL						
改善)		徒のいる学校に対して支援員	を適正配置し、障	宇宇	令和元年度における事務事業スケジュール 当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。							

				基本計画
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

I		予算科目							
	款	項	目	事	事業名				
	9	04	01	80	特別支援教育支援員活用事業				

実施計画	整理番号
10304	40103
総合戦略 整理番号	0

\neg	事務事業	の概要					
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)					
PLAN	障害を持つ子どもが、幼稚園において適正な教育や支援を受けられる様 にする。						
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール					
画)		支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に 応じたサポートを行う。					

		ΕΛ		Ε. ()	豆八	単		H29年度			H30年度			4	令和元年度		,	令和2年度	
	区分		位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	Ī	計画	予算	決算	計画	予算	決算			
	事業費		千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,0	033	5,080	0	0	5,080	0	0			
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0			
!		県補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0			
	源 内	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0			
	-	一般財源	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,0	033	5,080	0	0	5,080	0	0			
	個別 取組							取組に係る費用(千円) 計画 予算 決算					個別取組の達成状況及び今後の方向性						
	1	特別支援	教育	支援員の		5,27	5,275 6,486 6			6,033	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。 今後も状況を把握しながら配置を検討していく。								
	2							0	0		0								
D	3							0	0		0								
0								Ī											

		事業費計	5.275	6.486	6.033	
	10		0	0	0	
	9		0	0	0	
	8		0	0	0	
	7		0	0	0	
	6		0	0	0	
施)	5		0	0	0	
〇(実施	4		0	0	0	
D	3		0	0	0	
	2		0	0	0	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する園児のいる幼稚園に支援員(4名)を配置し、生活上の介助等のサポートを行った。

				基本計画		
章	節	項	細	実施計画事業名	款	
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業	9	

予算科目												
款	項	目	事	事業名								
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業								

103040103

	30年度活動指標	(アウトブット)の達成状況		30年度成果指標(アウト)	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況								
	支援員を適正に	配置した。(4名)		3園に4名の支援員を配	3園に4名の支援員を配置した。								
	买当村	の評価とその理由	有効性	性の評価とその理由	効率性の評価とその理由								
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不	A:有効である	支援員を配置することにより 適切な支援ができるため有 効。	C:あまり効率的 ではない	支援員のニーズが高まって いるため、コストの増加が 見込まれる。							
	「情報の共	(有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働	」の状況とその理由							
	C:実現の余地 がない			行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地 がない	行政のみでしか実現できない事業。							
СН	所管による評価とその理由、課題・問題点												
E C	A:十分な成果を												
	企画政策課での	評価とその理由											
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	果を 対児期教育に対する学習補助という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、適正な 支援員の配置や配置時間を検討するものとする。											
	政策調整会議での評価とその理由												
		での正順にての生田											
	庁議における方	♣											
	71 1921 - 0017 073												
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	'ウトカム)の設定								
A C T	支援員の適正配	温 置。(配置数)		各園に1名以上の配置。	各園に1名以上の配置。								
公	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	务事業スケジュー	ル							
改善)	令和元年度における具体的な目標 支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を 害に応じたサポートを行う。		員を適正配置し										

	基本計画											
章	節	項	細	実施計画事業名								
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業								

	予算科目											
款	項	目	事	事業名								
9	02	02	80	職員研修支援事業								

実施計画	整理番号
1030	50101
総合戦略 整理番号	0

٦	事務事業	の概要
I	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N	教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てる ようにする。	各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催 研修への参加の促進。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
: 画)	・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。	・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。・教育研究指定校への支援。(五郷小・東部小)・校内研究会・研究協議会への支援。

		区分	単		H29年度		ı	H30年度				令和元年度			令和2年度	
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計[画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,1	02	979	0	0	979	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,1	02	979	0	0	979	0	0
	個知		内容	取 計画	マ組に係る 予	費用(千 算	- 円) 決 算		個別	取組の達用	或状況及び	「今後の方	向性			
	1	校内研究	⋛・₹	研究協議会の支援			85	2	852			校内研究会・研究協議会の充実のための支援を 行った。教員の資質向上のため、継続が必要である。				必要であ
	2	研究指定	校の)支援			20	0	220	2	220	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年 にわたるため、継続が必要である。				
D O	3	全国学力]状況	問査の結	果分析		2	4	30		30	学力状況調査の結果をもとに、問題と解答を分析 し、児童の学力向上を図った。継続が必要である。				
(実施	4	•						0	0		0					
) E	(5))					0	0		0						
	6)						0	0		0					
	7)						0	0		0					
	®							n	Λ		n					

0

0

1,076

0

0

1,102

0

0

1,102

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

9

10

- ・各学校で校内研修会を実施した。・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。・学力状況調査の結果分析会議を年3回開催した。

事業費計

基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業				

	予算科目								
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	02	02	08	職員研修支援事業					

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、全小学校 ・校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 の教職員が参加した。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 ・全国学力状況調査の結果分析を行い、授業へ反映させることができ 全国学力状況調査の結果分析を年3回行った。 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 類似する取り組みはなく、意 教員の資質向上を図ること 成果を維持するための必要 A:妥当である A:有効である 図の達成に貢献しているた A:効率的である は、市の義務であり、妥当。 な経費である。 め有効。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 行政のみでしか実現できな 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 C:実現の余地 がない い事業。 がない い事業。 がない い事業。 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н E A:十分な成果を С K **|挙げた(達成度** |教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑚により資質の向上を図ることができた。 8割以上) 評 価 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 各取り組みについて、教職員の資質・力量の向上に成果を上げたと認められる。引き続き取り組みの充実を図るものと 挙げた(達成度 する。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針 令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) 校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映。(分析対象児童の追跡調 ・全国学力状況調査の結果分析。(調査・分析回数) 杳) С Т

令和元年度における具体的な目標

改善

令和元年度における事務事業スケジュール

- ・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。
- ・教育研究指定校への支援。(西小・東部小)
- ・校内研究会・研究協議会への支援。

- ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。
- ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。

	基本計画						
Ī	章	節	項	細	実施計画事業名		
	1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業		

予算科目							
款	項	目	事	事業名			
9	03	02	80	職員研修支援事業			

実施計画整理番号							
103050102							
総合戦略 整理番号	0						

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
РЬКИ (教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てる ようにする。	各学校での校内研修会の実施及び自主グル―プの育成、県教委主催 研修への参加の促進。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。	教育研究指定校への支援。(本納中)校内研究会・研究協議会への支援。・進路指導充実のための支援。

		ΕΛ	単		H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度	
		区分	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費		765	765	765	765	765	76	65 765	0	0	689	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
ı	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	765	765	765	765	765	76	65 765	0	0	689	0	0
	個別 取組			内容			計画		系る費用(千円) 予算 決算 個別取組の達成状況及び今後の方向性				向性		
	1	校内研究会・研究協議会の支援					55	i3	校内研究会・研究協議会の充実のための支援を 553 553 行った。教員の資質向上のため、継続が必要である。						
	2	進路指導	の支	援			11	2	112	112	充実した進路指導の実施のための支援を行った。 毎年行われるため、継続が必要である。				
D	3	研究指定	を校の)支援			10	0	100	100	研究の充実にわたるだ	実のための こめ、継続が)支援を行が必要であ	った。研究! る。	は複数年
〇(実施	4							0	0	0					
施	5							0	0	0					
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	8							0	0	0					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・各学校で校内研修会を実施した。

- ・ 進路指導充実のための補助金を支給した。 ・ 研究指定校の公開研究会への参加を促進した。

事業費計

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	E
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業		9	03	0

	予算科目								
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	03	02	08	職員研修支援事業					

整理番号 103050102

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 ・適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、全中学校 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 の教職員が参加した。 進路指導充実のための支援をした。 ・ 進路指導の充実が図られた。 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 類似する取り組みはなく、意 教員の資質向上を図ること 成果を維持するための必要 A:妥当である A:有効である 図の達成に貢献しているた A:効率的である は、市の義務であり、妥当。 な経費である。 め有効。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 行政のみでしか実現できな C:実現の余地 がない い事業。 がない い事業。 がない い事業。 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н E A:十分な成果を С K **挙げた(達成度** | 教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑚により資質の向上を図ることができた。 8割以上) 評 価 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を いずれの取り組みも、教職員の資質・力量の向上という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められ 挙げた(達成度 る。引き続き取り組みの充実を図るものとする。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針 令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) 校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) 進路指導の充実。 ・進路指導充実のための支援。(補助額) С Т 令和元年度における具体的な目標 令和元年度における事務事業スケジュール 改

善

教育研究指定校への支援。(早野中)

・校内研究会・研究協議会への支援。

・進路指導充実のための支援。

校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	03	06	01	新共同調理場建設事業					

H29年度

単

区分

予算科目							
款	項	目	事	事業名			
9	06	05	01	共同調理場建設事業			

令和元年度

実施計画整理番号						
103060101						
総合戦略 整理番号	0					

令和2年度

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N		既存の共同調理場及び4つの単独調理場を統廃合し、新センターへの集約を図り、学校給食衛生管理基準及びHACCPに基づいた施設を建設する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を締結する。 ・建設用地の草刈りを年2回実施する。 ・事業者と市において、施設整備協議会・運営協議会を開催し、円滑な事業の遂行に努める。 ・基本設計・実施設計を実施する。 ・建設工事の着手

H30年度

		四月	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,99	714,717	0	0	431,249	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		123,647	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		245,700	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	50,000	0	0
		一般財源	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,99	1 345,370	0	0	381,249	0	0
	個知			内容			計画	取組に係る 予	6費用(千Ⅰ 算	円) 決 算	個別	取組の達	成状況及び	が今後の方	向性
	1			内容を検 契約を締約		めアドバ	7,00	00	725	511	29年度また。	事業者が決定したため、アドバイザー契約は平成 9年度まで。事業に必要な業務委託を実施し、また、旅費、消耗品費なども支出した。今後も事業の 足進に努める。			
	2) モニタリ	ング∮	22約			3,33	33	6,480	6,480	モニタリング支援業務委託契約を締結した。今後も 事業者が行う各種業務に対し、適切な助言や提言 など様々な業務支援を受けながら、事業の促進に 努める。				言や提言
D O	3	給食セン	ター	の設計・建設・運営				0	0	0					
(実施	4	既存施言	受の取	ひ壊し				0	0	0					
)	(5))						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10)						0	0	0					
		事業費計						33	7,205	6,991					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・事業者が行う設計・建設・運営・維持管理などの各種業務に対し、専門的で客観的な立場からの適切な助言や提言、必要な書類の作成など、様々 な業務支援
- のため、モニタリング支援業務委託契約を締結・建設用地隣接地の草刈りを1回実施
- ・施設整備協議会を全3回(4月~6月、毎月1回)、総合定例会を全9回(7月~3月、毎月1回)、維持管理・運営協議会を全8回(8月~3月、毎月1回) 実施
- ・基本設計・実施設計を実施

	基本計画								
章	節	項 細 実施計画事業名							
1	03	06	01	新共同調理場建設事業					

供するため、基本・実施設計を完了させ、建設工事に着手した。

	予算科目										
款	項	目	事	事業名							
9	06	05	01	共同調理場建設事業							

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

整理番号 103060101

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

新給食センターより令和元年9月1日から最大6500食の給食を提

基本・実施設計を完了させ、学校給食衛生管理基準に適合する施設 の建設工事に着手できた。

妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 基本計画に基づきPFI手法 を用いて整備をしており、学 食育の推進を図るとともに、 基本計画に基づきPFI手法 校給食衛生管理基準に適合 栄養バランスのとれた安全・ を用いて整備しており、従 する施設を早期に建設し、 A:妥当である 安心でおいしい学校給食を A:有効である A:効率的である 来方式に比べて市の財政 将来にわたり児童生徒に、 提供し、子ども達の健全な 負担額が削減することが見 安全・安心でおいしい学校 育成を図る事業である。 込まれる。 給食を提供することが確実 である。 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 「情報の共有」の状況とその理由 ホームページでの公表 A:実現してい 地元自治会や関係者と協 地元自治会や関係者と協議 A:実現している A:実現している 議を行っている 広報 ぁ を行っている

所管による評価とその理由、課題・問題点

A:十分な成果を 挙げた(達成度 評 価 8割以上)

C

Ε

C

K

茂原市学校給食基本計画に基づき、茂原市学校給食センター再整備等事業をPFI手法にて実施している。平成30年度 では事業者が行う設計・建設・運営・維持管理などの各種業務に対し、専門的で客観的な立場からの適切な助言や提 言、必要な書類の作成など、様々な業務支援のため、モニタリング支援業務委託契約を締結した。また、事業としては基 本・実施設計が完了し、建設工事に着手できた。令和元年度は建設工事を完了させ、令和元年9月1日から安全・安心で 温かく美味しい給食の提供に努める。しかしながら、開業の準備期間が短く、また、既存の単独調理場を配膳室に整備 する期間も短いなどの課題もあることから、引き続き、供用開始に向けた準備に努める必要がある。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

モニタリング支援業務委託契約を締結したことや、基本設計及び実施設計が完了し、建設工事に着手したことにより、当 初の目的は達成されたと認められる。引き続き、令和元年9月の供用開始に向けて事業を進捗させるものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

給食提供数 最大6500食	環境衛生基準対応率
令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
・建設工事の完了、引き渡し	・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を継続する。

- 月1日からの給食供用開始
- ・単独調理場のプラットホーム及び配膳室整備

令和元年度活動指標(アウトブット)の設定

- 総合定例会、運営協議会の開催
- 関係部署との協議

С Т 改 善

建設用地の適切な維持管理

建設工事を完了させ、引き渡しを受ける。

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

- ・9月1日からの供用開始に向け開業準備を実施する。
- ・4校の単独調理場を配膳室として整備する。
- ・事業者と市において、総合定例会・運営協議会を開催し、円滑な事 業の遂行に努める。

	基本計画								
章	節	す 項 細 実施計画事業名							
1	04	01	01	東部台文化会館天井改修事業					

	予算科目									
 款	項	目	事	事業名						
9	05	07	02	施設維持管理費						

実施計画整理番号					
104010101					
総合戦略 整理番号	0				

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
Р		調査設計業務委託をし、その結果により工事費を確保し、利用者の安 全を第一に考え改修工事を進める。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	事の逆延寺がないよう、工事業者との連絡を密にし工程官理に努め、催実に履行する。 の書家については、関係内でも、登出い長却・予約など事務会でも可能な	年度当初早急に調査設計業務委託を行い、その結果により9月補正で 工事費を確保する。当該年度の完了が困難であるため繰越とし、11月 より音楽ホール他3階各室と図書室を閉鎖し、平成31年4月末の工事 完了に向けて、安全に工事を実施する。

		区分	単位		H29年度			H30年度			令和元年度	:		令和2年度	
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	0	0	0	10,348	142,540	60,48	0 0	0	0	0	0	0
		国補助	国補助 千円		0	0	2,516	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0		0	0		
	源内	市債	千円	0	0	0	4,500	142,500	60,40	0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	3,332	40	8	0 0	0	0	0	0	0
	個取			内容			計画		·算用(千)	円) 決 算	個別]	取組の達	成状況及び	「今後の方	向性
	1	音楽市調査部		図書室特別	定天井改	修工事	10,34	.8 1	6,633	15,120	予定通り	予定通り完了。工法を選定し、工事費を算出。			
	2	音楽オ	楽ホール・図書室特定天井改修工事					0 11	9,340	45,360	工期が平成30年10月31日から平成31年4 月26日のため繰越。				31年4
D	(3		音楽ホール・図書室特定天井改修工事 ^{佐理業務}					0	6,567	0	工事完了後の監理業務のため繰越。				
〇(実施	4							0	0	0					
施	(5							0	0	0					
	@							0	0	0					
	7							0	0	0					
	(8	3)					0	0	0						
	(2)							0	0	0					
	1							0	0	0					
				事業費計			10,34	8 14	2,540	60,480					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・当初予算で調査設計業務委託を行い、その結果により9月補正で工事費を確保。 ・11月~4月末まで音楽ホール他3階各室と図書室を閉鎖し、利用者の安全を確保し、工事を実施。 ・5月からの業務再開に向けて、工事の遅延等がないように実施。

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	04	01	01	東部台文化会館天井改修事業					

	予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名						
9	05	07	02	施設維持管理費						

整理番号 104010101

30年度活動指標(アウトブット)の達成状況

- ・当初予算で調査設計業務委託を行い、その結果により9月補正 予算要求をし、工事費を確保することができた。
- ・工事予定を利用者に周知し、11月から4月末まで音楽ホール他 3階各室と図書室を閉鎖し、安全に工事を進めることができた。
- ・図書室の閉鎖中、貸出・返却・予約など事務室でも可能な業務を使性を確保することができた。 行った。

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

- ・建築基準法の改正に伴う耐震基準に適合させるための業務を進め ることができた。
- ・図書室について、事務室で可能な業務を行ったことで、利用者の利

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由		
A:妥当である	建物などハード面の工事等を行い、利用者に安全・安心な環境を提供することは、自治体が実施すべきことである。		建築基準法の改正に伴う耐 震基準に適合するため有効 である。		地方債「緊急防災・減災事 業債」を活用して事業を実 施できた。	
「情報の共	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	工事実施による音楽ホール 他3階各室と図書室の閉鎖 について、掲示物・広報・ ホームページでお知らせし、 情報が広く届くよう努めた。	C:実現の余地 がない	法改正による基準に適合させるための事業のため	C:実現の余地 がない	法改正による基準に適合させるための事業のため	

所管による評価とその理由、課題・問題点

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

Н

Ε C

Κ

評

価

С

改 善

工期が平成30年10月31日から平成31年4月26日までのため繰越となるが、平成30年度末時点で概ね工事は終了 しており、検査合格後に完了となる。

建築基準法の改正に伴う耐震基準に適合した形となり、利用者に文化活動の場及び避難場所として、安全・安心な環境 を提供することができることとなる。

企画政策課での評価とその理由

挙げた(達成度 8割以上)

A:十分な成果を 概ね改修工事が完了しており、当初の目的は達成されていると認められる。引き続き、利用者の安全確保を第一に考 え、施設の長寿命化等の維持管理に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 ・音楽ホール及び図書室の5月からの業務再開に向けて、準備を 利用者に安全・安心な環境を提供し、市民の文化活動を支援する。 確実に行う。

令和元年度における具体的な目標

令和元年度における事務事業スケジュール

- ・音楽ホール設備設営等操作委託の業者との連絡を密にし、5月 からの利用再開に向けて万全の準備をする。
- ・図書室の業務再開に向けて、書架整理、業務端末の移設等を確 実に行う。
- ・音楽ホール5,6月分の予定を業者に伝え、準備に漏れがないように する。
- ・事務室に移設していた業務端末を4月末に元の図書室へ戻し、5月1 日から再開できるよう、書架整理等を行う。

	基本計画					
章	節	項 細 実施計画事業名				
1	04	02	01	公民館学級運営費		

	予算科目						
款	項	目	事	事業名			
9	05	02	04	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費			

実施計画整理番号		
104020101		
総合戦略 整理番号	0	

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N	1. 防食 6.15% 建设 6.66% 土田口 北江土州 6.15侧 11.6.15%	各公民館(中央、本納、鶴枝)では主催教室として女性、成人、少年を対象に23教室を平日、夜間及び土曜に開催する。 (講師謝礼;市内2,500円/時、郡内3,000円/時、郡外3,800円/時)
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・青少年の事業拡大を含めた主催教室の向上	・平成30年3月:予算確定 ・平成30年4月:広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・平成30年5月:随時開催可能な講座の企画

	区分			H29年度			H30年度		3	令和元年度			令和2年度	
			計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	事業費	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	0	0	1,047	0	0
	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貝		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
源内	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訳		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	0	0	1,047	0	0

	個別		取組	1に係る費用(=	千円)	
	取組	内容	計画	予算	決算	個別取組の達成状況及び今後の方向性
	1	中央公民館主催6教室の実施	494	425	371	開催数:55回・延べ参加人数:940人・出席率: 88.14% 実施した主催教室は7教室である。
	2	本納公民館主催教室6教室の実施	312	262	256	開催数:38回・延べ参加人数:532人・出席率: 84.31% 実施した主催教室は8教室である。
D O	3	鶴枝公民館主催教室9教室の実施	384	360	356	開催数:55回・延べ参加人数:623人・出席率: 86.73% 実施した主催教室は10教室である。
〇(実施	4		0	0	0	
施	5		0	0	0	
	6		0	0	0	
	7		0	0	0	
	8		0	0	0	
	9		0	0	0	
	10		0	0	0	
1		事業費計	1,190	1,047	983	

- ・中央公民館 開催数:55回・延べ参加人数:940人・出席率:88.14% 実施した主催教室は7教室。
 ・本納公民館 開催数:38回・延べ参加人数:532人・出席率:84.31% 実施した主催教室は8教室。
 ・鶴枝公民館 開催数:55回・延べ参加人数:623人・出席率:86.73% 実施した主催教室は10教室

基本計画					
章	節	項細		実施計画事業名	
1	04	02	01	公民館学級運営費	

予算科目					
款	項	目	事	事業名	
9	05	02	01 04 07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費	

104020101

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

妥当性の評価とその理由

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

新規主催教室を開催したが、自主グループの発足には到らなかっ た。

新規教室は開催したが、新旧教室の受講者が集まらず、参加者数は 昨年度よりも減少した。結果新規自主グループの発足には到らなかっ

効率性の評価とその理由

B:ほぼ妥当で ある	地域における生涯学習の拠点施設として、各種の講座 や事業を実施し、学びや交流の機会を提供した。	B:やや有効で ある	誰もがともに学びあう機会を 提供し、青少年に限る学習 機会も設けることが出来た。	B:やや効率的 である	市民のニーズに対応した多様なジャンルの主催教室を 開催し、多くの市民に学習 機会を提供した。
「情報の判	も有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	」の状況とその理由
B:実現に向け て取り組んでい る	示するなど情報共有してい	B:実現に向け て取り組んで いる	高齢者が多く、参加者数が 減少しているが、青少年を 含む新規受講者の獲得に向 けて検討する。	A:実現している	地域住民の学習ニーズを 積極的に企画、運営に反映 させるため、公民館運営審 議会を年2回開催している。

有効性の評価とその理由

所管による評価とその理由、課題・問題点

B:ある程度の 成果を挙げた

新規主催教室を開催し、青少年の学習機会を設け成果を上げたが、新旧教室の受講者数等については、昨年よりも減 (達成度4割~7)少したので、主催教室の内容、周知方法の検討等、新規受講者の獲得に努める必要がある。

割)

割)

Ε

С

Κ

評 価

企画政策課での評価とその理由

B:ある程度の 成果を挙げた

新規主催教室を開催するなど受講者の増に向けた取り組みを行ったが、受講者数が昨年度より減少していることから、 (達成度4割~7)より参加しやすい方策について検討し、自主グループ発足に向け取り組むものとする。

政策調整会議での評価とその理由

	- + \ /.	+ z -	ᆂᄼ
庁議に	ーめい	ノる.	力 邨T

	令和元年度活動指標(アウトブット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
Α	・多世代の主催教室の開催数の増加と内容の充実、質の向上をめざす。 ・市民のニーズを理解し、教室受講者の自主サークル発足を促進する。	・参加者の増加 ・公民館自主グループの増加
改	令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
善)	・青少年の事業拡大を含めた主催教室の向上	・平成31年3月:予算確定 ・平成31年4月:広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・令和元年5月:随時開催可能な講座の企画

基本計画					
章	節	項	細	実施計画事業名	
1	04	02	01	文化会館主催事業	

		予算科目									
ĺ	款 項 目 事				事業名						
ĺ	9	05	07	03	文化会館主催事業						

実施計画	整理番号							
104020102								
総合戦略 整理番号	0							

Γ		事務事業	の概要
		事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	P L 4 N	市民の文化活動を援助し、教養の向上を図るための講座や事業を充実させる。また、外房地区に映画館のない現状のなか、市民の身近な施設で上質な映画を定期的に提供することにより、文化活動の拠点となるようにする。	・多様なニーズにあった主催教室を実施する。 ・主催事業として、上質な映画や当地域の文化歴史を伝える映画を、市 民の協力を得て有料・無料で定期的に上映する。
1	計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
li	画)	①主催教室・・・新規教室1教室以上、参加者の定員割れを失くす。 ②映画会・・・無料映画会の参加者数の増加、有料映画会の目標参加者	①主催教室・・・太極拳教室(10回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(6回)子どもアレン・フラワー教室(3回)フラダンス教室(5回)ノート・パソコン教室(5回)子ども工作教室(2回)名作映画を大画面で(優秀映)②映画会・・・大画面でみる映画会(2回)名作映画を大画面で(優秀映

								回鑑員推進事業、2日間4回)(10月)								
I		豆 八	単位		H29年度			H30年度			令和元年度	Ę	,	令和2年度		
		区分		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
	事	事業費 千円		1,817	1,558	1,479	692	745	6	37 738	0	0	738	0	0	
		国補助	千円	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0	
	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0	
	訳	その他	千円	220	220	200	220	215	2	00 215	0	0	215	0	0	
	•	一般財源	千円	1,597	1,338	1,279	472	530	4	37 523	0	0	523	0	0	
l	個別 取組 内容						計画	対組に係る 予		- _{円)} 決算	個別	個別取組の達成状況及び今後の方向性				
	1	主催事業	の充	実			40	9	422	321	天井改修工事の他、エレベーター等の工事が重なり、安全確保のため、主催教室の回数を減らした。 今後は従前のように継続。					
	2	映画上映	会の	実施			28	13	323	316	回数は減	工事による音楽ホール閉鎖のため、無料映画会の 回数は減少したものの、有料映画会は予定通り実 施。今後も継続。				
D 0	3							0	0	0						
実施	4							0	0	0						
\smile	5							0	0	0						
	6							0	0	0						
	7							0	0	0						

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

事業費計

- ・主催教室は9教室延べ42回実施、参加者1,136名。 ・「大画面でみる映画会」(無料)は2回延べ4回実施、参加者695名。 ・「名作映画を大画面で!」(優秀映画鑑賞推進事業、有料)は2日間延べ4回実施、参加者610名。

				基本計画	
章	節	項	細	実施計画事業名	蒜
1	04	02	01	文化会館主催事業	ç

予算科目										
	款	項	Ⅲ	事	事業名					
	9	05	07	03	文化会館主催事業					

104020102

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

- ①主催教室は9教室(内新規2教室)延べ42回実施し、概ね目標を 達成できた。
- ②無料映画会は年2日延べ4回実施、有料映画会を2日延べ4回を 実施し、目標を達成できた。

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

- ①主催教室は、概ね定員数の申込みがあり、延べ参加者数は1,136名 となった。新規教室の開催も行い、教養の向上を図れた。
- ②無料映画会は、音楽ホール天井改修工事のため閉鎖していた時期 があり、開催回数が減り参加者数が減少したものの695名の参加があ り、有料映画会は610名の参加があった。

I	妥当性	の評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性の評価とその理由		
	A:妥当である	低料金で様々な活動の機会を提供する主催教室や、映画鑑賞の場を提供する映画会は、自治体が実施すべき文化事業である。	A:有効である	主催教室への参加をきっかけに自己啓発のため自主活動や民間の教室に参加する方も多くいる。映画会は毎回好評を得ており、文化・教養の向上のために有効な事業である。		必要最低限の費用で、質の 高い事業を実施できてい る。	
ŀ	「情報の共	(有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由		

С

Н Ε

С K

広報、民間情報誌、新聞な どに情報を載せ、ポスターを A:実現している 近隣自治体に配布するな ど、広く情報が届くようにして いる。

A:実現してい

る

休日に主催事業を開催する など、参加者層の拡大を 図っている。

A:実現している

有料映画会を市民協働で 実施している。

所管による評価とその理由、課題・問題点

評 挙げた(達成度 価 8割以上)

①主催教室は、太極拳などの運動系の教室や、人気の高いうたごえ教室、料理教室、子ども工作教室など様々な教室を **A:十分な成果を**|実施した。また、新規にフラダンス教室や手作りアクセサリー教室を実施し、充実した事業となった。

②無料映画会は、年2回延べ4回と回数は減ったものの参加者695名と盛況であった。有料映画会は3回目の開催となり 実行委員会と市民協働により実施できた。映画は上映演目により参加者層が変動することや、無料で上映できる映画が 限られていることから、上質な作品と集客力を考慮しての作品選びが重要であり課題である。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 新規主催教室を実施したことや、映画会での参加者の増加等、当初の目標を達成しており、成果があったものと認めら 挙げた(達成度 れる。引き続き主催教室の充実及び市民ニーズの把握に努め、より多くの市民が参加できるよう努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトブット)の設定

- 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
- ①主催教室・・市民のニーズに合った教室を10教室以上実施す
- ②映画会・・・・無料映画会を定期的に開催し、楽しみにしている方 の期待に応えられるよう、上質な映画を上映する。
- ①主催教室・・満足感の得られる教室を開催し、市民の教養の向上を 図る。
- ②映画会・・・・無料映画会は満足度向上のため上質な映画を選定し、 有料映画会は実行委員会を中心とした活動とボランティアを活用し、 市民の文化活動を支援する。

令和元年度における具体的な目標

令和元年度における事務事業スケジュール

①主催教室・・新規教室1教室以上、参加者の満足度向上 ②映画会・・・・無料映画会の参加者数の増加、有料映画会の目 標参加者数450人以上。

①主催教室・・公式ワナゲ教室(6回)太巻き寿司教室(5回)男の料理) _____ 教室(5回)大多喜ガス共催料理教室(1回)うたごえ教室(9回)茶道教 室(9回)フラダンス教室(8回)ノートパソコン教室(4回)子ども工作教 室(2回)子どもアレンジフラワー教室(2回)ゴスペル教室(3回)手作り _ ハーバリウム教室(1回)

②映画会・・・大画面でみる映画会(3日延べ6回)名作映画を大画面 で!(優秀映画鑑賞推進事業、2日間延べ4回)

С Т

改

善

	基本計画										
章 節 項 細				実施計画事業名							
1	04	02	02	社会教育団体支援事業							

H29年度

				予算科目
款 項 目 事				事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

令和元年度

実施計画整理番号									
104020201									
総合戦略 整理番号	0								

令和2年度

_		
	事務事業 事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	の概要 活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN	任会教育関係団体の活動を文援し、活動を活性化させる。 	各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修や婦人学級等を開催 する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		・各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) ・指導者の養成を図るための研修会の開催。

H30年度

	区分		分代		≅分		区分		区分		分位				N- 66			A. A.						
			江	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算									
		事業費		千円	888	888	863	888	888	86	679	0	0	679	0	0								
		国補	助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0								
	財	県補	助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0								
	源内	市(債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0								
	訳	その	他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0								
		一般財	掠	千円	888	888	863	888	888	86	679	0	0	679	0	0								
	個是	别						取	組に係る	費用(千	円)	/E D.I	Ta 40 の 注:		\$ ^ # ^ +	<u> </u>								
	取約	組			内容			計画	予	算	決算			成状況及び										
	1	連合	婦人	.会の	活動支援	į		21	4	214	189	茂原市連 支援した。 散。	[合婦人会 。連合婦.	会に補助金 人会は平月	きを交付し 成30年度	、活動を 末で解 								
	2) PTA	連合	· 会の	活動支援	2		5	1	51	51	茂原市P 支援した。	TA連合会 。今後も5	会に補助金 引き続き支	きを交付し 援を行う	、活動を 。								
D O	3	ボー	イスフ	カウト	·活動支援	<u> </u>		2	4	24	24	ボーイス: 活動を支	カウト茂原 援した。 ≤	原第2団に 今後も引き	補助金を続き支援	交付し、 を行う。								
(実施	4) 子ど	も会う	育成:	支援			59	9	599	599	茂原市子 し、活動を う。												
	(5)						I	0	0	0													
	6)						1	0	0	0													
	7)						ı	0	0	0													
	8							ı	0	0	0													
	9)						ı	0	0	0													
	Œ								0	0	0													
				事	業費計			88	8	888	863													

- ・各団体に補助金を交付し、活動を支援した。

 ①連合婦人会 169千円(地区別研修会、バザー、七夕おどり等)
 ②PTA連合会 51千円(講演会、研修等)
 ③ボーイスカウト茂原第2団 24千円(ハイキング、奉仕活動等)
 ④子ども会育成連合会 580千円(キャンプ研修、わくわく研修会、新年交歓会等)
 ・指導者の養成について、婦人会では中央研修会と婦人学級、子ども会では育成者研修会を開催した。

基本計画										予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	Ⅲ	事	事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業		9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

整理番号

	30年度活動指標	(アウトブット)の達成状況		30年度成果指標(アウト)	カム)の達成状況							
	・補助金の交付(・講習会等の開(・活動が活性化された団・講習会等の参加人数								
	妥当性	の評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性	の評価とその理由						
	A:妥当である	青少年教育の充実や女性 の社会参加の促進を図るために各団体に補助金を交付 し、活動を支援することは妥 当である。	A:有効である	青少年教育の充実や女性 の社会参加の促進等、各団 体の目的達成のために補助 金が有効活用されている。		団体の運営資金の一部を 補助しており、効率的であ る。						
	「情報の共	(有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由						
0	A:実現している	補助金交付要綱をウェブ ページで公表している。	A:実現してい	補助金交付要望書により要 望を取り入れている。	A.宇理! デいて	団体との情報共有や適切な 役割分担を行っている。						
C H	所管による評価。	とその理由、課題・問題点										
E C K	A:十分な成果を	達運営費の補助による活動支援を行うとともに、会員減少や役員のなり手不足等の課題を抱える団体については指導者を 対象とした講習会を開催するなど人材育成に努め、組織強化を図った。青少年教育の充実を一層進めるために、今後も 関係団体に対して継続的に支援していくことが必要。										
$\overline{}$	企画政策課での	評価とその理由										
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)											
	政策調整会議での評価とその理由											
	200 mg	VALUE COVER										
	庁議における方	計										
	7) 19921 - 00317 - 0031	力對										
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定							
A C T	・補助金の交付・講習会等の開作	牛数			・活動が活性化された団体数・講習会等の参加人数							
<u></u>	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	8事業スケジュー							
改善)	•研修会、講習会	の開催による人材の育成。 員数の減少を抑制する。		・各団体への補助金の交 ①PTA連合会(51千円) ②ボーイスカウト(24千円) ③子ども会育成連合会(令和元年度における事務事業スケジュール ・各団体への補助金の交付。 ①PTA連合会(51千円) ②ボーイスカウト(24千円) ③子ども会育成連合会(580千円) ・指導者の育成を図るための研修会の開催。							

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	05	02	01	スポーツ教室事業					

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	06	01	02	スポーツ教室事業				

実施計画整理番号						
105020101						
総合戦略 整理番号	32202					

П	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN	市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の 実現を目指す。	基本的な運動技術の習得を目標に各種スポーツ教室を開催する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	新たな教室の企画、教室の受付方法等	ヨーガ教室 5~7月・10~12月 計20回 太極拳教室 5~7月・10~12月 計20回 美と健康づくり体操教室 5~7月・10~12月 計20回 トレーニング教室 随時 エアロビクスダンス教室 10月~3月 計18回 Jr. パレーボール教室 12/16

	区分		単	H29年度				H30年度			4	令和元年度		令和2年度		
			位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	<u>[</u>	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	945	945	881	945	964	8	352	874	0	0	452	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
ļ	は「	県補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	原人为人	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	沢	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	945	945	881	945	964	8	352	874	0	0	452	0	0
	個別 取組			内容		取 計画	双組に係る 予			決算				「今後の方「		
	1	各種スポー	ー ツ	教室の開	催		945 964			852	一般対象5教室、中学生対象1教室、今後も継続予定			も継続予		
	2							0	0		0					

	拟組		計画	予算		
	1	各種スポーツ教室の開催	945	964	852	一般対象5教室、中学生対象1教室、今後も継続予 定
	2		0	0	0	
D O	3		0	0	0	
)(実施	4		0	0	0	
他)	(5)		0	0	0	
	6		0	0	0	
	7		0	0	0	
	8		0	0	0	
	9		0	0	0	
	10		0	0	0	
		事業費計	945	964	852	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

ヨーガ教室 5~7月·10~12月 計20回 受講者数202人(29年度194人) 太極拳教室 5~7月·10~12月 計20回 受講者数100人(29年度120人) 美と健康づくり体操教室 5~7月·10~12月 計20回 受講者数106人(29年度90人) パラスポーツ教室 4~3月 計20回 受講者数60人(29年度実施無し) エアロビクスダンス教室 10月~3月 計16回 受講者数 30人(29年度39人) Jr. バレーボール教室 12/15 受講者数 150人(29年度150人)

	基本計画									予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	目	事	事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業		9	06	01	02	スポーツ教室事業

整理番号

	30年度活動指標	[(アウトプット)の達成状況			30年度成果指標(アウトナ	コム)の達成状況					
	各種スポーツ教	室を6教室開催した。			6教室648人が参加した。	·o					
	妥当性	性の評価とその理由	有効性		評価とその理由	効率性の評価とその理由					
	<u> </u>		- H W I.	<u> </u>	川川にての江山	効準性の計画ともの理由					
	A:妥当である	市民がスポーツを行うきっか けづくりとして、自治体が事 業を実施することは妥当で ある。	A:有効である	室もけに	員を超える応募がある教 あり、教室参加をきっか こスポーツを始める市民 いるため有効である。		受益者負担の立場から傷 害保険は受益者が負担して いる。				
	「情報の当	共有」の状況とその理由	「参加	ושו	状況とその理由	「拉働」	」の状況とその理由				
	「日刊リンプ		「愛加	1707	ががこくの注由	' 1777 [美月]	の状況とその生田				
	B:実現に向け て取り組んでい る	広報、ホームページで市民 に教室開催の情報を提供し ている。	B:実現に向け て取り組んで いる	きな	号者や、夜間しか参加で ない市民に対応するため 数室を開催した。	B:実現に向け て取り組んでい る	教室参加者から要望等の 聞き取りを行っている。				
С	所管による証価	とその理由、課題・問題点									
H E	M B 1 C S O II IIII	C () 经出 () 版									
C K	B:ある程度の 成果を挙げた (達成度4割〜7 割)										
	正 四 以 不 你 (0)										
	B:ある程度の 成果を挙げた (達成度4割〜7 割)				での成果は認められるが、さらに幅広い年齢層が参加でき、多くの参加者 、既存の教室についても、さらなる充実を図るものとする。						
	政策調整会議で	の証価とその理由									
	以不即正厶成(調整会議での評価とその理由									
	庁議における方	針									
=	会和 元年在廷科	・			今和元年度代田七福/マ	ウトカノトの訊点					
	卫和几年 及活動	カ指標(アウトプット)の設定			令和元年度成果指標(ア	アトカム)の設定					
A C T	各種スポーツ教 (教室開催予定数			多くの市民が参加、受講できるようにする。 (参加者数見込 530人)							
改	令和元年度にお	ける具体的な目標			令和元年度における事務		ル				
善		画、初心者・若年層の参加増		ヨーガ教室 5~7月・10~12月 計16回 太極拳教室 5~7月・10~12月 計16回 美と健康づくり体操教室 5~7月・10~12月 計16回 ストレッチ教室 11月 計5回 エアロビクスダンス教室 10月~12月 計8回 Jr. バレーボール教室 12/15							

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	05	02	01	スポーツ振興事業					

N

計 画

	予算科目							
	款	対 項 目 事			事業名			
ſ	9	06	01	03	スポーツ振興事業			

実施計画整理番号					
105020102					
総合戦略	32203				
整理番号	32204				

事務事業の概要

活動内容(目的を達成するために何を行うか) 事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)

市民に、スポーツに触れ合う機会を数多く提供し、市民の健康増進を図り、 スポーツを通じて、健康で活気あるまちづくりを推進する。また茂原市体育 協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化を図り、競技スポーツと青少年 の健全育成を推進する。

タッチバレーボール大会・ファミリースポーツまつり・スポレク祭等を開催 する。体育協会と共催で市民体育祭を開催する。体育協会とスポーツ少 年団に補助金を交付し支援する。総合的な、スポーツの振興に関する 事項を審議するため、スポーツ推進審議会を開催する。総合型地域ス ポーツクラブ検討委員会を設置する。大相撲茂原場所の開催をする。

平成30年度の具体的な目標 平成30年度スケジュール

スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より 多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区を基準とした地区 協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な意 スポーツ活動事業を行う。併せて、緑ヶ丘地区に設立した総合型地域ス ポーツクラブの支援も行っていく。また、障害者スポーツの推進も行い、障 害者スポーツの教室や体験会を開催する。

見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして、取り組んでいく。 ※茂原市スポーツ推進委員会議年7回実施

	区分	単		H29年度			H30年度			令和元年度		令和2年度		
	ΔЛ	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	事業費	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,694	0	0	6,652	0	0
	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
源内	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訳	その他	千円	0	0	0	0	0	0	120	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,574	0	0	6,652	0	0

	個別	内容	取組	に係る費用(=	千円)	個別取組の達成状況及び今後の方向性
	取組	內谷	計画	予算	決算	個別収組の建成状況及び予復の分間性
	1	体育協会と共催し市民体育祭の開催	1,082	1,103	999	体育協会と共催し、23競技を実施。 現状維持。
	2	各種スポーツイベントの開催	2,053	2,871	2,469	スポーツに取り組むきっかけ作りを目的としたイベントを開催。今後も継続する。
-	3	体育協会活動とスポーツ少年団活動の 支援	2,257	2,257		体育協会とスポーツ少年団へ活動補助金を交付し、各組織の自主的活動への支援をした。今後も 継続する。
DO(実施	4	スポーツ推進審議会の開催	174	174	102	茂原市のスポーツ推進の現状を審議し、今後の具体的な取り組み事項について審議した。今後も継続する。
施)	5	トップアスリートによる講演会	100	236	181	元オリンピック選手と現役パラリンピック選手による 競技実演や講話を間近で体験できる機会が作れ、 市民のスポーツへの関心を高めた。今後も継続す る。
	6	総合型地域スポーツクラブ設立に向けて の検討・準備・設立	290	0	0	新たなクラブ設立に向けて、小学校を拠点とした 「地区スポーツ活動」を継続開催している。
	7	市民マラソン大会の検討	0	0	0	
	8	スポーツ掲示板啓発	20	10		
	9	錣山部屋ふれあい相撲・(仮称)大相撲 茂原場所の開催	1,000	1,000	1,000	大相撲力士を招いて、公開稽古や市民と力士との 交流を行い約1,500人の来場者をお迎えした。
	10	スポーツ推進委員活動	951	1,080	713	市発祥のスポーツ、タッチバレーボールの普及をは じめ、スポーツ推進事業の実働を行った。 今後も 継続する。
		事業費計	7,927	8,731	7,731	

- ①市民スポーツの推進に関するイベントの企画・運営を協議するため、スポーツ推進委員会議を7回開催した。
- ②市民体育祭を23競技で開催した。 8月19日~11月24日 参加人数 3,679人。 ③各種スポーツ大会の開催。 第4回もばらタッチバレーボール千葉県大会、ファミリースポーツまつり・茂原市スポレク祭・エンジョイスポーツ教室等 ④スポーツの推進に関する事項について調査・審議するため、スポーツ推進審議会を2回開催した。
- ⑤市民のスポーツへの関心を深めるため体育の日に新規事業の「もばらスポーツフェスティバル」を開催した。

				基本計画					予算科
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	
1	05	02	01	スポーツ振興事業	9	06	01	03	スポーツ振興

	予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名						
9	06	01	03	スポーツ振興事業						

105020102

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

市民体育祭、ファミリースポーツまつり、茂原市スポレク祭、タッチ バレーボール大会、エンジョイスポーツ教室等を開催した。また、 市内小学校の学校開放を活用した地区スポーツ活動(タッチバ ノーボール教室)を開催した。

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

各種事業に述べ7.298人が参加した。

効率性の評価とその理由 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 スポーツの推進には単に楽 しむ機会の提供をするだけ 市民の健康増進のきっかけ 各種事業必要最小限の費 でなく、スポーツを通じて市 づくりとして、各種スポーツ A:妥当である A:有効である A:効率的である 用により事業は実施されて 民の健康増進に繋がること 事業を実施することは有効 いる。 が自治体の役割として必要 である。 である。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 広報、自治会回覧、小中学 各種事業の運営において 校配布、ウェブページでの情 各種事業において老若男女 A:実現してい は、専門知識を持った団体 A:実現している A:実現している 報発信に加え、フェイスブッ が参加できる状況を提供し と協働し、スポーツ事業を る クを活用してタイムリーな情 ている。 実施した。 報発信に取り組む。

所管による評価とその理由、課題・問題点

Н Ε C

Κ

評 佃

Α

Т

改

善

A:十分な成果を スポーツ推進計画に基づき、着実に事業の達成が図られている。

8割以上)

挙げた(達成度 |総合型地域スポーツクラブの緑ヶ丘スポーツクラブに次ぐクラブ設立に向けて、小学校に学校開放を利用した「地区ス ポーツ活動」を開催しているが、設立、そして運営に必要な、人材の育成が必要となる。

企画政策課での評価とその理由

B:ある程度の 成果を挙げた

イベントの参加者が増加していることについては、一定の成果が認められるが、幅広い年代に気軽に参加してもらう取り (達成度4割~7 組みや、地域に密着したスポーツ活動の拠点としての総合型地域スポーツクラブの設立を早急に行うものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 スポーツ推進に係る事業の開催数 事業への参加人数 С

令和元年度における具体的な目標

スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向け て、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区 を基準とした地区スポーツ活動事業を行う。 緑ヶ丘スポーツクラブ に次ぐ、総合型地域スポーツクラブ設立に向けて、「地区スポーツ 活動事業」を行うことにより、各地区の情報を得て、設立に必要と される人材の育成を図っていく。

令和元年度における事務事業スケジュール

協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な 意見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして、取り組んでいく。 また、今後のスポーツ事業に必要な人材を発掘するため、スポーツボ ランティア制度を設立する。

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	06	01	01	新市民会館建設事業					

	予算科目									
款	項	目	事	事業名						
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業						

実施計画整理番号						
106010101						
総合戦略 整理番号	0					

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N	民の多様化したニーズへの対応が困難となっている。このため、茂原市総	建設の必要性を含めて、基本的な機能、役割等について検討し、市民 や専門家等の幅広い意見を集約の上、基本構想及び民間活力の導入 可能性調査及びその後の計画を策定する必要がある。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・施設機能や規模、概算事業費、管理運営の検討・整備手法、概算事業費の検討	(仮称)茂原市民会館建設基本計画策定等支援業務委託契約の締結・基本計画の策定・整備手法及び概算事業費の検討・市民や中高生のワークショップの開催・先進地視察やシンポジウムの開催

		区分	単		H29年度			H30年度		,	令和元年度			令和2年度	
		四刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	12,491	12,38	7 66	66	0	6,545	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	一般財源 千円 10,228 10,228 10,18				10,184	11,491	12,491	12,38	66	66	0	6,545	0	0	
	個!			内容			計画	収組に係る 予	費用(千F	円) 決算	個別」	取組の達用	成状況及び	「今後の方	向性
	1	新市民	会館建	設基本構	想の策定	Ē		0	0	0					
	2			設基本計 「能性調査		≧及び民	11,38	33 1	2,150	12,150	策定支援 策定。	策定支援業務委託契約を締結し、基本計画を 策定。			
D	3	新市民	新市民会館建設基本設計					0	0	0					
〇(実施	4	委員報	酬等					0	341	237	検討委員	会(有識	者会議)3	回の委員	報酬を支
施)	(5							0	0	0					
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	8							0	0	0					
	9							0	0	0					
	Œ							0	0	0					
			Ē	事業費計			11,38	33 12	2,491	12,387					_

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

(仮称)茂原市民会館建設基本計画を策定した。

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	06	01	01	新市民会館建設事業					

	予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名						
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業						

整理番号 106010101

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 市民ワークショップ4回延べ80名、高校生ワークショップ1回29名、 先進地視察14名、シンポジウム166名、庁内検討委員会3回、検 (仮称)茂原市民会館建設基本計画の策定 討委員会(有識者会議)3回、市議会特別委員会3回、市議会全員 協議会2回、政策調整会議1回、庁議1回 効率性の評価とその理由 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 文化芸術によって人々に安 ワークショップ、シンポジウ らぎを与え、創造力や表現 ムや様々な会議により、専 昨年度の基本構想をさらに A:妥当である 力を引き出す拠点として、市 A:有効である A:効率的である 門家の意見を参考に、幅広 具体化することができた。 民生活を豊かにする様々な い意見の聴取ができた。 機会と場を提供するため。 「情報の共有」の状況とその理由 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 -般市民や高校生の参加に 市民ワークショップやシンポ 市民ワークショップやシンポ よるワークショップやシンポ A:実現してい A:実現している A:実現している ジウムの開催やその内容のる ジウムの開催、先進地視察 ジウムの開催、先進地視察 WEBへの掲載 所管による評価とその理由、課題・問題点 Н Ε С |A:十分な成果を|(仮称)茂原市民会館建設基本計画策定等支援業務委託契約を随意契約により、㈱シアターワークショップと締結。ワ-K **|挙げた(達成度 |**クショップ、先進地視察、シンポジウムなどを開催し、平成29年度に策定した基本構想をさらに具体化した基本計画を策 8割以上) 定した。 評 価 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 『茂原市民会館建設基本計画』を策定したことにより、当初の目標は達成されたと認められる。引き続き、建設手法の検 挙げた(達成度 討等、より具体的に建設に向けた検討を進めるものとする。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由 庁議における方針 令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 · 庁内検討委員会の開催 (仮称)茂原市市民会館建設・運営に関するサウンディング調査

令和元年度における具体的な目標 改 善

令和元年度における事務事業スケジュール

整備手法の検討

С Т

建設候補地の建設における各種課題の整理

・茂原市PPP/PFI導入基本方針に基づく庁内検討会、庁議

- 庁内検討委員会 ・(仮称)茂原市市民会館建設・運営に関するサウンディング調査
- •市議会特別委員会

整備手法の決定

・茂原市PPP/PFI導入基本方針に基づく庁内検討会、庁議

基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名			
1	06	02	01	文化祭開催事業			

H29年度

単 位

区分

予算科目							
款	項	目	事	事業名			
9	05	01	09	文化祭開催事業			

令和元年度

計画 予算 決算 計画 予算 決算 計画 予算 決算 計画 予算 決算

実施計画整理番号					
106020101					
総合戦略 整理番号	0				

令和2年度

\neg	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生涯学習活動、文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識の 向上を図る。	茂原市文化協会との共催により、茂原市文化祭を開催する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	会場催保の問題解決と出品・出演者数の電加を志與に、市民の字省の機 今の歴史も本宝させる	第67回茂原市文化祭(10月28日~12月12日)美術館・郷土資料館 ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。

H30年度

				前四	了异	次 异	三回	17 异	次 异	司四	了异	次 异	前四	7 异	次 异
		事業費	千円	477	477	420	477	479	428	452	0	0	452	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0		0	0	0	(0			0	0	0
	訳	その他	千円	0	_		0	0				0	0		_
		一般財源	千円	477	477	420	477	479	428	452	0.	0	452	0	0
	個知 取締			内容			取 計画	7組に係る 予	費用(千P	^{円)} 決算	個別	取組の達	成状況及び	「今後の方	向性
	1	茂原市文	化祭	の開催			47	7	479	428	茂原市文化 資料館ほか く。	比祭実行勢 か10会場	委員会を組 にて開催。	織し、美術 今後も実施	館・郷土
	2)						0	0	0					
D O	3)						0	0	0					
(実施	4)						0	0	0					
)	(5)						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	(II							0	0	0					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

事業費計

第67回茂原市文化祭(10月28日~12月12日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 出品・出演者数3, 298名 入場者数11, 058名

477

479

428

						平成30)年	F度	事和	务事	業評価シート			
	基本計画										予算科目			整理番号
章	1	節」	頁	細	実施計画事業名			款	項目	事	<u> </u>	事業名		
1	C	06 0)2	01	文化祭開催事業			9 (05 O	09	文化祭開催事業	\$		106020101
30	年月	度活	動	指標	(アウトプット)の達成状況				30	年度	成果指標(アウト:	カム)の達成状況		
	文化祭の開催日数 10月28日~12月12日 21日間 来場者数 11,058名 会場数 10会場 出演団体数、出演者数、出品者数 3,298名													
			妥	当性	の評価とその理由		有	効性	の評値	iとそ	の理由	効率性の	评価	とその理由
A: <u>}</u>	市と文化協会が共催するこ A: 妥当である とで、市民の芸術文化活動 A: 有効でる が推進できる。					あ	る 3		を提	文化活動の発 供することで活 図る。	A: 効率的である を-	-度	団体の発表の機会 に設けることで入場 加を期待できる。	
		「情	報	の共	(有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由 「協働」の						犬況	とその理由
	市広報、市ホームページ、自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。							* r = +			市	レサル	化協会等の文化団	
	実現	見して	てし	る	自治会回覧を通じて参加募 集、日程等の情報を提供し		てし	小	且織し	、参加	祭実行委員会を D者や参加団体 会を提供してい	体(A:実現している 委員	こよ! 員会 こよ.	り茂原市文化祭実行 を組織し、市民と協 る事業運営を行って
				_	自治会回覧を通じて参加募 集、日程等の情報を提供し		てし	小	組織し の要望	、参加	口者や参加団体	体(A: 実現している 委員 働(こよ! 員会 こよ.	り茂原市文化祭実行 を組織し、市民と協
G H E C 〈 〜 平 8 **	管 l + ゲ i ナ i ナ i ナ i ナ i ナ i ナ i ナ i ナ i ナ i		る記載を	呼価。	自治会回覧を通じて参加募 集、日程等の情報を提供し ている。	程につい	て	協議し	組織した。	参加の機	の者や参加団体 会を提供してい のることで、効率的	体! A:実現している 委! 働! い?	こより	り茂原市文化祭実行 を組織し、市民と協 る事業運営を行って
G H E C 〈 (平面	告げが 別以	こよ。 うな) た(道 (上)	ずり	平価。 艮を ・皮	自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。 とその理由、課題・問題点 各団体と会場の割り振りやE	程につい	て	協議し	組織した。	参加の機	の者や参加団体 会を提供してい のることで、効率的	体! A:実現している 委! 働! い?	こより	り茂原市文化祭実行 を組織し、市民と協 る事業運営を行って
□所 A:→ 8 ■企 A:→ 本	管 十げり 画 十げ	こよった(道 た(道 (上)	る。 ・ は は は は は は は は は は は は は は は は は は	呼価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。 とその理由、課題・問題点 各団体と会場の割り振りや日今後も限られた施設規模のが	る 1程につい なかで効率 その文化活	で的	協議しな事	組織要のな運動を対する	参機・進が・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の者や参加団体 会を提供してい かることで、効率的 要である。 、及び、市民が文	A:実現している 条: 会: 働! いる	こ員によった。	り茂原市文化祭実行を組織し、市民と協る事業運営を行って い事業を計画した。

庁議	ーナ	<u>1+ Z</u>	士쇠
T = 7		-	力市工

	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
A C T		来場者数 出演団体数、出演者数、出品者数
(改善	令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール

会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の 学習の機会の確保を充実させる。

第68回茂原市文化祭(10月30日~12月11日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	06	02	01	美術館展示事業				

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	05	05	01	美術館展示事業				

実施計画整理番号				
10602	20102			
総合戦略 整理番号	32103			

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN	広く市民に芸術文化に触れ、鑑賞できる機会を提供し、地域の芸術文化事 業の充実を図るとともに、その振興に資する。	地域ゆかりの作家の作品について周知を図るため、美術収蔵品展の開 催を基本としながら、平成31年度には、当館の目玉となる林功作品を生 かした企画展を開催する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	収蔵品展を開催し、地域の芸術文化の振興に資することを目標とする。	平成29年度からの継続展覧会を含め、年11回の収蔵品展を開催、各収蔵品展ポスターはA3で作成し、約130ヶ所に配布しPRに努める。 さらに千葉県移動美術館を開催、ポスター・チラシ作成の上、県内約190ヶ所への配布、またチラシの自治会回覧を行いPRに努める。 学芸員によるギャラリートーク年4回開催。

		区分	単位		H29年度		l	H30年度		,	令和元年度			令和2年度	
		四刀		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費		155	155	151	80	569	56	9 3,031	0	0	5	0	0
		国補助	千円	0			0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	_		0	0		0 0	0	0		_	_
	訳	その他	千円	0			0	0		0 420	ļi	0	0		_
		一般財源	千円	155	155	151	80	569	56	9 2,611	0.	0	5	0	0
	個知			内容			取 計画	マ組に係る 予		円) 決 算	個別取組の達成状況及び今後の方向性				向性
	1	収蔵品風	その 開	催			8	0	5	5	収蔵品展の開催(年11回実施)				
	2	企画展 <i>0</i>)開催	ĺ				0	0	0	平成30年度は開催なし。令和元年度に実施する。				
D	3	県移動美	美術館	1				0	564	564	H30.8.28~30.9.9に実施				
〇(実施	4)						0	0	0					
施)	(5)						0	0	0					
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	8							0	0	0					
	9))						0	0	0					
	Œ							0	0	0					
	事業費計					8	0	569	569						

- ・収蔵品展の開催(年11回実施) ・千葉県移動美術館の開催 ・学芸員による展示解説会の開催(6回実施)

		基本計画		
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

				予算科目			
款 項 目 事				事業名			
9	05	05	01	美術館展示事業			

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

ガルはの証はしての理由

活動指標どおり、年11回の収蔵品展ならびに千葉県移動美術館とも、ポスター作成・配布し、PRに務めた上で開催した。

年間展示作品数は、収蔵品展、県移動美術館併せ291点を展示、展示解説会は、収蔵品展、県移動美術館併せ6回開催し、計81名の参加があり、ともに活動指標を大きく上回って達成した。

|30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

収蔵品展ならびに千葉県移動美術館の会期中における入館者数は、 目標数値を超え35,822人であった。

共本性の証据しての理点

2 -	生の評価とその理田	IIWH.	生の評価とその理田	効率性の評価とその理由		
A:妥当である	茂原市立美術館ならびに千葉県立美術館の収蔵作品を展示し、広く市民に芸術文化に触れる機会を提供した。		┃		必要最低限の経費で業務を完了した。	
				「協働」の状況とその理由		
「情報の	共有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	」の状況とその理由	

た 並供 の 証 使して の 理士

所管による評価とその理由、課題・問題点

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

H

С

K

評

価

| 会期中の入館者数、年間展示点数は、目標を大きく上回っており、収蔵品展の他、千葉県立美術館収蔵作品の展覧会 | **A:十分な成果を**| (県移動美術館)開催など意義深い事業を行った。

挙げた(達成度 共催団体の展示、文化祭開催も重要な事業であり、すべて開催した。

一年を通じて収蔵品を鑑賞できる「常設展示」は無いものの、ホームページ等で事前に展示内容を確認の上、来館する スタイルが、来館者に浸透しつつあるようである。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

入館者数は、昨年度と比較して減少しているものの、当初の目標は達成している。引き続き市民ニーズの把握に努め、 企画展等の創意工夫をするとともに、地域芸術文化の振興に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

- •年間展示作品数
- ・学芸員による展示解説会(ギャラリートーク)の実施回数、及び参加者数
- •情報提供(PR)先箇所数

企画展、収蔵品展等の会期中において28,000人以上の入館者を成果 指標とする。

企画展においては、観覧料240,000円(観覧料300円×800名)、図録等代180,000円(図録500円×360冊)の歳入を成果指標とする。 学芸員による展示解説会年3回の参加者40人を成果指標とする。

令和元年度における具体的な目標

改 年間展示作品数は、企画展、収蔵品展等合わせて、200点以上を 善 目標とする。

平成30年度からの継続展覧会を含め、年7回の収蔵品展、茂原市内の小中学校所蔵美術品展を開催、A3ポスターを作成し、PRに努める。

企画展においては、ポスター・チラシ作成の上、新聞等への広告 掲載、チラシの自治会回覧等のPRに努め、更に図録を作成、販売する。

令和元年度における事務事業スケジュール

収蔵品展(通年)、茂原市内の小中学校所蔵美術品展(6月~9月)企画展(9月~10月)を開催し、地域の芸術文化の振興に資することを目標とする。

A C T

				基本計画
章	節	項	細	実施計画事業名
1	00	02	01	芸術文化講座事業

				予算科目
款	項	目	事	事業名
9	05	05	03	芸術文化講座事業

実施計画整理番号						
106020103						
総合戦略 整理番号	0					

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L 4 Z (美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催 する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)		各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習で きる機会を提供する。

		区分	単		H29年度			H30年度			令和元年度	Ę		令和2年度	
		E /)	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費 ŦĦ 100 100 10			100	98	98	7	98	0	0	98	0	0	
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	100	100	100	98	98	7	98	0	0	98	0	0
	個別取網			内容			耳 計画		5費用(千円) - クライン					向性	
	1) 美術実	技講座	区の開催			5	3	53	43	・美術実技講座の開催(全4回)小学生向け(1回実施)参加人数6人、大人向け(3回実施)参加人数10人29人39人				
D	2	郷土文	化実技	支講座の 開	催		1	5	15	0	・歴史セミナーの開催(年3回) 参加人数① 25人②21人③24人				
0	3	古文書	講座の)開催			3	0	30	30	・古文書講座の開催(全9回)各38名出席				
実施)	4							0	0	0					
	(5))						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7							0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10							0	0	0					
			I	事業費計			9	8	98	73					

- ・美術実技講座の開催(全4回) 小学生向け(1回実施)参加人数6人、大人向け(3回実施)参加人数①6人②9人③9人 ・歴史セミナーの開催(年3回)参加人数①25人②21人③24人 ・古文書講座の開催(全9回)各38名出席

基本計画									
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	06	02	01	芸術文化講座事業					

予算科目									
款	項	Ⅲ	事	事業名					
9	05	05	03	芸術文化講座事業					

整理番号 106020103

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

美術実技講座の開催回数は小学生向け1回、一般向け4回と活動 指標通り達成した。歴史セミナーについても実施回数3回、古文書 講座についても実施回数9回で活動指標どおり達成した。

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

・美術実技講座(全5回)の参加人数は、小学生向け参加人数6人で応 募人数の5割にとどまり、指標の7割に達しなかった。大人向け(3回実 施)についても、応募人数に対する参加人数が1回分は7割に達したも のの、他のものについては7割に達しなかった。

・歴史セミナー(全3回)、古文書講座(全9回)については、指標の21人 以上をすべて達成した。

	妥当性	を を の 評価とその 理由	有効性	生の評価とその理由	効率性	の評価とその理由
	A:妥当である	郷土文化講座については、民間と同テーマ、同内容での実施は見当たらない。美術実技講座については民間、個人教室との重複はあるが、公の施設においては参加しやすい経費で体験できることから芸術文化振興には大いに寄与している。	A:有効である	郷土文化講座については民間との類似性は低く、かつ参加者は中高齢者を中心に毎回参加希望者が多数であり、また美術実技講座についても、参加料や内容について初心者が参加しやすいものとしているため、ともに芸術文化の振興に大いに寄与している。	A:効率的である	予算内の金額で講師を引き 受けていただいており、効 率的である。
	「情報の共	も、大川の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由
E		ホームページや広報もばら、 各種ミニコミ紙に情報提供を 行っている。今後、記事につ いては、分かりやすく、初心 者にとっても興味が持てるよ うにしていく。	B:実現に向け て取り組んで いる	小学生については夏休み、 一般については土日開催と するなど、参加しやすい日程 設定に努めている。	B:実現に向け て取り組んでい ス	講座の内容については、参加者アンケートや参加時のご意見をもとに、講師と協議している。

所管による評価とその理由、課題・問題点

B:ある程度の 成果を挙げた (達成度4割~7) か検討が必要である。 割)

評

郷土文化講座については、応募人数に対し参加者数が8割前後であり、かなり成果をあげた。ただし、古文書講座につ いてはいわゆる常連の方の参加率が高く、電話受付開始の日にほぼ定員に達し、その後苦情が多く出た。このため、公 の施設で講座を行う意義を再確認し、初心者が参加し、1年継続できる内容にできないか、また市内在住優先とできない

美術実技講座については、内容が初心者向けでありながら興味深いものとしており、参加料も参加しやすい基準に設 定しているが、参加人数が今一つ伸びないことから、やってみたいと読者が思うような記事を各種PR媒体に掲載していく ことが必要である。

企画政策課での評価とその理由

B:ある程度の 成果を挙げた 割)

各講座の参加者について一部目標に達していないが、一定の成果が認められる。今後は、講座の参加方法や事業内容 (達成度4割~7 等を精査するものとし、市民が参加しやすい環境づくりに配慮ものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

催を目標とする。

	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
	・講座の開催回数	・講座の参加人数(応募人数の7割を目標とする)
Α		
С		
Т		
$\overline{}$		
	令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
善	美術実技講座については、小学生向け1回、一般向け3種目4回	美術実技講座の小学生講座は夏休み期間中の実施、一般向けは
$\overline{}$	開催を目標とする。	土日、休日の開催を基本とする。
	郷土文化護座については、歴史セミナー3回、古文書護座9回盟	郷土文化護座(一般向け)についても、土日開催を其太とする

	基本計画							
章	節	項	無 実施計画事業名					
1	06	02	02	文化振興事業				

H29年度

	予算科目						
款	項	目	事	事業名			
9	05	01	80	文化振興事業			

令和元年度

実施計画	整理番号
10602	20201
総合戦略 整理番号	0

令和2年度

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLAN (芸術文化鑑賞会や小中学校音楽鑑賞教室を実施する。 各文化団体を支援する。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。	小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)東中・早野中(小)鶴枝小・中の島 小・新治小・東部小・緑ヶ丘小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌 舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭 等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合唱連盟(南総コーラスのつ どい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

H30年度

事業費 千円 3,848 3,848 3,758 3,848 4,400 4,382 4,048 0 0 4,048 0 0 4,048 0 0 4,048 0 <t< th=""><th></th><th></th><th colspan="2">区分</th><th>+</th><th><u>.</u></th><th></th><th colspan="2"></th><th colspan="2"></th><th></th><th colspan="3"></th><th colspan="3"></th></t<>			区分		+	<u>.</u>												
財 開補助 手用 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				位	Ĺ	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
財 原内 下内 で 下			事:	業費	千日	円	3,848	3,848	3,758	3,848	4,400	4,38	4,048	0	0	4,048	0	0
# 市 債 〒〒 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			Ξ	国補 助	千	円	0	0	0	0					0	0	0	0
内駅 中間 中間 20 0 </td <th></th> <td></td> <td>県</td> <td>具補 助</td> <td>千日</td> <td>円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>0 0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td>			県	具補 助	千日	円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
一般財源 平内 1,525 1,525 1,434 1,525 2,041 2,023 1,489 0 0 1,489 0 0 0		内	7	ī 債	千	円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
1		訳	7	の他	千日	円	2,323	2,323	2,324	2,323	2,359	2,35	2,559	0	0	2,559	0	0
取組 内容 計画 予算 決算 個別取組の達成状況及び与後の方向性 ① 小中学校音楽鑑賞教室の開催 630 630 630 実施予定の7校において実施した。今後も実施してい、。 ② 芸術文化鑑賞会の開催 0 0 親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞機会を提供した。今後も実施してい、。 ③ もばら音楽祭の支援 310 310 310 ま存に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。 ④ 文化団体の活動支援 2,908 3,460 3,442 情度は茂原市文化協会に対して、市民会館開館記念コンサートを行うため予算を増額した)。今後も支援していく。 ⑤ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑥ 0 0 0			_	般財源	千	円	1,525	1,525	1,434	1,525	2,041	2,02	1,489	0	0	1,489	0	0
1							内容							個別	取組の達用	 拔状況及び	う後の方	向性
② 芸術文化鑑真芸の開催 0 0 会を提供した。今後も実施していく。 ③ もばら音楽祭の支援 310 310 310 まだと音楽祭実行委員会が企画運営する音楽祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。 ④ 文化団体の活動支援 2,908 3,460 3,442 文化団体に対して財政的な支援を行った(本生度は茂原市文化協会に対して、市民会館開館記念コンサートを行うため予算を増額した)。今後も支援していく。 ⑤ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑦ 0 0 0 ⑦ 0 0 0 ⑨ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0		1) /	小中学校	交音:	楽	鑑賞教室	の開催		63	80	630	630			おいて実力	施した。今	後も実
③ もばら音楽祭の支援 310 310 310 第祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。 ② 文化団体の活動支援 2,908 3,442 文化団体に対して財政的な支援を行った(本年度は茂原市文化協会に対して、市民会館開館記念コンサートを行うため予算を増額した)。今後も支援していく。 ⑤		2)]	芸術文化	上鑑:	賞	会の開催				0	0	0					鑑賞機
全 文化団体の活動支援 2,908 3,460 3,442 文化団体に対して財政的な支援を行った(本年度は茂原市文化協会に対して、市民会館閉館記念コンサートを行うため予算を増額した)。今後も支援していく。 ⑤ 0 0 0 ⑥ 0 0 0 ⑦ 0 0 0 ⑧ 0 0 0 ⑨ 0 0 0 ⑩ 0 0 0 ⑩ 0 0 0	D	3) =	もばら音	楽务	※ 0	の支援			31	0	310	310	楽祭に対	して財政			
6 0 0 0 7 0 0 0 8 0 0 0 9 0 0 0 10 0 0 0 10 0 0 0	うつ(実施	4)]	文化団体	本の	活	動支援			2,90)8 ;	3,460	3,442	年度は茂 閉館記念	原市文化 コンサー	は協会に対 トを行うた	して、市月	民会館
7 0 0 0 8 0 0 0 9 0 0 0 10 0 0 0		⑤									0	0	0					
8 0 0 0 9 0 0 0 10 0 0 0		6)								0	0	0					
9 0 0 0 0 0 0 0 0		7)								0	0	0					
		8)								0	0	0					
		9)								0	0	0					
事業費計 3,848 4,400 4,382		10									0	0	0					
						事	業費計			3,84	18 4	1,400	4,382					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

小中学校音楽鑑賞会の開催(中)東中・早野中(小)鶴枝小・中の島小・新治小・東部小・緑が丘小芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援「奥村愛ヴァイオリンリサイタル」 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

				基本計画					
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	
1	06	02	02	文化振興事業	9	05	01	08	文化

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	05	01	08	文化振興事業				

106020201

整理番号

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 音楽鑑賞教室の参加者数 2,201名(実施校の児童生徒数により増 音楽鑑賞教室の開催日数 7校で1回実施、全7回 減) 芸術文化鑑賞会の開催日数 全5回 芸術文化鑑賞会の参加者数 159名 補助金の交付件数 5件 活動が活性化された団体数 全ての団体で活発な活動が行われた。 妥当性の評価とその理由 有効性の評価とその理由 効率性の評価とその理由 事業(団体)を継続的に実 初心者や小中学生が親し 芸術文化事業の実施や文 施、支援していくことが芸術 化団体を支援することで、市 みやすい事業の計画や補 A:妥当である A:有効である 文化の振興につながり、文 A:効率的である 民の芸術文化活動を推進で 助金交付団体の補助対象 化団体の安定的な活動も期 きる。 経費の精査を行っている。 待できる。 「参加」の状況とその理由 「協働」の状況とその理由 「情報の共有」の状況とその理由 市民参加の事業は、市広 芸術文化鑑賞会は参加者 報、ホームページで募集して 小中学校音楽鑑賞教室は から口頭で感想などを聞い A:実現してい いる。 ている。 実施校に企画立案を任せる A:実現している A:実現している 小中学校音楽鑑賞教室は 小中学校音楽鑑賞教室は ことで特色ある事業を実施 保護者への案内も行ってい 感想や要望を報告書に記載 している。 る。 している。 所管による評価とその理由、課題・問題点 Ε 芸術文化鑑賞会は定員を超える申込みもあり概ね好評である。引き続き親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞の機 С A:十分な成果を 会を充実させていく。 Κ 挙げた(達成度 | 小中学校音楽鑑賞教室は、日頃接する機会の少ない楽器等の生演奏を鑑賞できる機会として学校、児童生徒から好評 8割以上) を得ている。 評 文化団体(事業)の支援を継続していくことで、市民文化活動が継続され、芸術文化の振興につながる。 佃 企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 文化団体を継続的に支援することで組織活動の強化が図られ、十分な成果が挙げられたものと認められる。引き続き多 挙げた(達成度 くの市民が芸術文化に触れる機会を得られるように努めるものとする。 8割以上) 政策調整会議での評価とその理由

庁議における方	<u></u> 針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
音楽鑑賞教室の開催日数 芸術文化鑑賞会の開催日数 A 補助金の交付件数 C	音楽鑑賞教室の参加者数 芸術文化鑑賞会の参加者数 活動が活性化された団体数
へ 令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
改 善	小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)富士見中·茂原中·西陵中(小)東郷小・豊田小・茂原小・本納小
	芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春

文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。

もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化 祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合唱連盟(南総コーラ

スのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	06	03	01	文化財保護保存事業				

H29年度

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	05	01	10	文化財保護保存事業				

令和元年度

実施計画整理番号						
106030101						
総合戦略 整理番号	32303					

令和2年度

事務事業の概要 事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 活動内容(目的を達成するために何を行うか) 文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりそ一茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保 の普及を図る。 存団体の活動支援を実施する。 L Ν 平成30年度の具体的な目標 平成30年度スケジュール 計 画 ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開 水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予 定(2件)、市指定文化財管理謝礼

H30年度

	区分		単位	1123千皮			100千尺				7470千皮			77412千皮		
					計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業	費	千円	1,451	2,501	2,351	1,253	1,395	1,26	1,501	0	0	1,263	0	0
		国初	助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県神	亅助	千円	268	268	279	268	268	28	268	0	0	268	0	0
	源内	市	債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その	他	千円	140	140	49	140	80	5	60	0	0	60	0	0
		一般	財源	千円	1,043	2,093	2,023	845	1,047	92	1,173	0	0	935	0	0
	個知				内容			計画	費用(千I	 決算		個別取組の達成状況及び今後の方向性				
	1) ミヤ 活動		⊢⊐ĭ∙t	ニメハルゼ	ミ発生地	の保護	43	31	437		保護協議 協働し保	護(一労の)	1=0		
	2		指定文 舌動	化財	及び文化	遺産の保	護・管	33	37	537		市指定文 への管理	謝化セス	、払つに。		
D	3	郷:	上芸能	等保	:存団体の	活動支援	Z	28	35	285	285	保存団体 後も支援	に対して していく。	財政的な	援助を行 [.]	った。今
〇(実施	4	郷.	土芸能	発表	会の開催			6	69	48		触れる機 のため中	発表会を開催することで、郷土の伝統 触れる機会を提供する予定であったか のため中止した。			が、台風
池)	(5)	茂原	原市文	化財	審議会の	開催		13	31	88	44	文化財の 財の調査	文化財の散逸を防ぎ後世に伝えるため、文 財の調査・指定等を行った。			め、文化
	6)							0	0	0					
	7)							0	0	0					
	8)							0	0	0					
	9)							0	0	0					
	10)							0	0	0					
				事	業費計			1,25	3	1,395	1,260					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催

ヒメハルゼミ発生地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催

郷土芸能等保存会への補助金交付、台風のため七夕まつり郷土芸能発表会中止

茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定(2件)人車・お水かけと弥勒踊り、市指定文化財管理謝礼37件

				基本計画					予算科目
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	Ⅲ	事	事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業	9	05	01	10	文化財保護保存事業

整理番号 106030101

効率性の評価とその理由

協働して行っている。

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

妥当性の評価とその理由

地元住民と協働による環境整備の実施回数 4回(タナゴ、セミ) 協議会等の開催回数 4回(文化財、セミ、タナゴ)

調査の実施回数 2回(セミ)

郷土の文化財に触れる機会の提供回数 2回(郷土芸能、タナゴ)

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

環境整備 タナゴ77名 セミ5名 ミヤコタナゴ自然観察会 66名

ヒメハルゼミ抜殻調査 69名

A:妥当である	国県市指定文化財等の保 護保存を図ることで、文化財 に対する理解を深める。	A:有効である	文化財に対する理解が深まることで、郷土愛を育成することができる。		文化財審議会や保護協議 会等の意見をまとめながら 事業を進めている。
「情報の判	も 有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由
A:実現している	市広報紙や市ホームページを活用して文化財に関する	A:実現してい ス	保護協議会に地元住民や関 係団体が参加することで意 見や要望の機会を提供して	A:実現している	環境整備や郷土芸能発表会を地元住民や保存団体と物質である。

いる。

有効性の評価とその理由

所管による評価とその理由、課題・問題点

情報を提供している。

挙げた(達成度 8割以上)

Н F

С K

評 価

改 善

ミヤコタナゴ、ヒメハルゼミ発生地の環境整備は、地元住民、関係機関と協働し環境改善が図られている。

A:十分な成果を 市指定文化財を新規に指定し、文化財の保護保存、周知を図った。

郷土芸能等保存団体に対し財政的援助を行うとともに、発表会を開催し郷土の文化に触れる機会を提供する予定であっ たが、台風のため中止した。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

環境整備等の参加者も増加しており、文化財の保護保存という目的に、一定の成果があったものと認められる。引き続き 関係団体等と連携することで、文化財の保護保存及び郷土芸能の継承を図るものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
`	地元住民と協働による環境整備の実施回数 協議会等の開催回数 調査の実施回数 郷土の文化財に触れる機会の提供回数	参加人数

令和元年度における具体的な目標

令和元年度における事務事業スケジュール

水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。

郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強 化を図る。

ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の 開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開

茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定を予 定(2件)、市指定文化財管理謝礼

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	06	03	01	郷土資料館展示事業					

	予算科目								
崇	欠	項	目	事	事業名				
ć)	05	05	02	郷土資料館展示事業				

実施計画整理番号						
106030103						
総合戦略 整理番号	32103					

			<u> </u>
Γ		事務事業	の概要
		事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	P L A N	広く市氏に入れ知を公開し、郷工の歴史又れに触れ、学官できる機会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、文化財保護思想を普及する	郷土の歴史について周知を図るため、郷土資料館常設展示を開催する。 特に子どもたちへの理解と愛着を深められるよう、学校からの見学への 解説対応や出前講座などを行う。
ŀ	計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	画)	常設展示の他、テーマ展、昭和の小部屋コーナー展示等の開催により、より広く文化財の保護保存の啓蒙に努めるとともに、市史編さん事業で得られた資料等を展示に活用していく。	

		区分	単		H29年度		H	130年度		,	令和元年度	Į		令和2年度	
		运 刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	事	業費	千円	26	26	26	26	16	,	16 26	0	0	26	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	ᅛᆫ	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	26	26	26	26	16		16 26	0	0	26	0	0
	個別 内容						取 計画	組に係る		費用(千円) 個別取組の達成状況及び今後の方向性 ・					向性
	1	常設展の	開催	1			20	3	16	16	・テーマ展の開催(年2回)・常設展示全体のリニューアル				
	2						(ס	0	0					
D	3						(ס	0	0					
〇(実施	4						(ס	0	0					
施	5						(ס	0	0					
	6						(ס	0	0					
	7						()	0	0					

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・テーマ展の開催(年2回) ・常設展示全体のリニューアル ・学校からの見学対応(展示解説) ・出前講座の対応(鶴枝小、早野中、茂原中等)

事業費計

	基本計画							
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	06	03	01	郷土資料館展示事業				

予算科目								
款	項	Ⅲ	事	事業名				
9	05	05	02	郷土資料館展示事業				

整理番号 106030103

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

市史編さん事業で得られた史料を活用し、年2回のテーマ展の開 催ほか、常設展示全体のリニューアルを実施した。また学校から の見学への解説対応、鶴枝小、早野中、茂原中等小中学校等へ の出前講座や歴史セミナー3回実施し、より広く文化財の保護保 存の啓蒙に努めた。

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

年間入館者総数は、目標数値を大きく超え42,357人であった。

				· ·		
	妥当性	きの評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性	の評価とその理由
	A:妥当である	学芸員の調査研究を踏まえ、市内に現存する優れたえ、市内に現存する優れた文化財や館収蔵資料を展示し、広く市民に郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供するものである。	A:有効である	近隣他館との類似性はある が当館でのみでしか見られ ない歴史資料(人車市指定 文化財)や考古資料(国府関 遺跡木製品 県指定文化財) 等を展示している。		必要予算は極めて少なく効 率的である。
	「情報の#	も有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由
С	て取り組んでい	ホームページや美術館ニュ ースレター広報、情報誌へ の掲載等を行っている。	A:実現してい る	休館日や展示替以外はほぼ全て観覧できる日程としている。	B:実現に向け て取り組んでい る	市史編さん事業が進むにつれて、資料提供者が多くなった。寄贈、寄託資料も増え、展示に活用している。
Ε	記答による証法	しての理由 細照 明照上				

所管による評価とその理由、課題・問題点

B:ある程度の 成果を挙げた (達成度4割~7 割)

評

価

年間入館者数値目標を上回っており、学校の見学対応や出前講座等を活発に行っている。前年度からの目標であった 常設展示のリニューアルも実施、また29年度末からのテーマ展を含め3回開催し、市史編さん事業による成果等を展示し

しかしながら個々の展示を見る限り、限られた展示スペースや展示ケース等の不足から十分といえる展示には至っていな いと思われる。この点において更なる工夫が必要である。

企画政策課での評価とその理由

B:ある程度の 成果を挙げた 割)

多くの学校からの見学対応や、出前講座を積極的に行っており、文化財の保護保存の啓蒙について成果が認められる。 (達成度4割~7 引き続き、常設展を充実させるとともに、創意工夫を要するものとする。

政策調整会議で	の評価とその理由			

庁議における方針

	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
	・企画展の実施数	
	・常設展のリニューアル(一部展示替え含む)回数	
	・展示開催、内容に関する情報提供先の箇所数	入館者数年間35,000人を目標数値とする。
	・出則講座の美肔凹剱	八郎有数平向35,000人を目標数値とする。
С	・学校等からの見学時の展示解説対応回数	
Т	・学芸員による歴史セミナーの開催回数	
$\overline{}$		
改	令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール

改一 守和 元 年 度 に お け る 具 体 的 な 自 標

・常設展示1回、テーマ展2回のテーマ展、歴史セミナーを3回開 催する。リニューアルした常設展示を充実させる。

・学校等からの見学に対する展示解説対応や、学校等への出前 講座を引続き行う。

・より広く文化財の保護保存の啓蒙に努めるとともに、市史編さん 事業で得られた資料等を展示に活用していく。

常設展示の入替え、テーマ展の開催など定期的な展示替を行う。また 同時に寄贈、寄託された資料の整理を進めていく。例年同様に学校か らの見学依頼や出前講座の依頼にも積極的に対応していく。

	基本計画									
章	実施計画事業名									
1	06	03	02	市史編纂事業						

畄

H29年度

	予算科目								
款	項目事			事業名					
9	05	05	07	市史編纂事業					

令和元年度

実施計画整理番号								
10603	30201							
総合戦略 整理番号	32103							

令和2年度

事務事業の概要 活動内容(目的を達成するために何を行うか) 事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市史編さん委員会を開催し、調査の審議を行い、市史の執筆、編集を おこなう 昭和30年に『本納町史』の刊行より70年、昭和38『豊岡村誌』、昭和41年に ・史料の調査を行った場合、報告書と目録の作成を行う。 茂原市史が刊行より約55年が経過し、この間、新たな史料が多数発見さ 特に専門的な分野において、必要に応じて調査執筆委員を委嘱し、そ れているため、市史全体の見直しが必要となっている。このようななか、市 の資料の調査研究、執筆、編集を行う 制70周年から市史刊行を行うことにより、市民に茂原市の歴史的変遷を明・市史編さん事務局を美術館・郷土資料館内におき、市史編さんの円滑 らかにしてゆくとともに、郷土愛を育み、後世に市の歴史を継承する。 な遂行のため、適正な人員配置、予算の確保につとめる。 N 平成30年度の具体的な目標 平成30年度スケジュール 計 画 年5回、市史編さん委員会を開催し協議を進める。 市史編さん委員会の開催と基本方針の策定、市史の刊行計画・構成の協 年間を通し、石碑や墓碑、考古資料の調査、寺社の悉皆調査、歴史資 議、調査執筆員の選定。 料の所蔵情報提供を呼びかける。 石碑や墓碑のフィールド調査や民俗調査の次年度への準備。 寺社資料や地質ボーリング資料、考古資料の調査や見直し。 市内連合自治会総会にて調査協力依頼をする。(4月) 郷土資料館展示「明治の茂原に会いに行く」実施(6~11月) 『茂原市史調査報告書』の刊行や、郷土資料館の展示事業と連携による 市史編さん委員による「明治の茂原に会いに行く」講演会を開催(8月) 市史編さん講演会を開催し、市民への啓発に努める。市内連合自治会総会において市史編さんの調査協力を依頼する。 次年度以降の調査予定と費用を検討。 『茂原市史調査報告書』を刊行。(年度末)

H30年度

	区分		甲	1125千及				77476千皮							
		区刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,505	2,26	2,696	0	0	5,366	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	5	1	11 5	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,500	2,25	2,691	0	0	5,366	0	0
	個別 取組			内容			計画	双組に係る 予	算	·円) 決 算				「今後の方	
	1	市史編領	裊調査	そ員による	資料調査		1,61	9	1,514	1,346	714時間)			実施(3人、 延べ84時	
D	2	市史編	纂委員	会の設置	武、開催		29	0	290		・市史編さん委員会開催(年4回)				
О	3	資料集(の刊行	Ī				0	701	697	・茂原市5編)の刊名	史調査報· 亍(各300	告書第三 部)	集(史料総	扁)(目録
(実施)	4)						0	0	0					
	(5))						0	0	0					
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10)						0	0	0					
			=	事業費計			1,90	9 :	2,505	2,261					

- ・市史編さん委員会開催(年4回)
- ・調査員による資料調査の実施(3人、のべ714時間)
- ・有識者による調査の実施(延べ84時間)
- ・茂原市史調査報告書第三集(史料編)(目録編)の刊行(各300部)
- ·講演会1回実施

	基本計画											
章	節	項	細	実施計画事業名								
1	06	03	02	市史編纂事業								

	予算科目											
款	項	目	事	事業名								
9	05	05	07	市史編纂事業								

整理番号 106030201

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

- ・市史編さん委員会を年4回開催した。
- 調査員による資料調査を実施した。(3人、延べ714時間)
- ・有識者による調査を実施した。(延べ84時間)
- ・市民に対する講演会を年1回開催した。

- 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況
- ・基本方針と刊行計画を策定した。
- ・茂原市史調査報告書第三集(史料編)(目録編)の刊行(各300部)
- 講演会の実施。参加者86名。

	妥当性	の評価とその理由	有効性	性の評価とその理由	効率性の評価とその理由		
		市史の発行は客観的かつ専門的知識が求められるものであり、市が編さんしていく必要がある。	A:有効である	昭和30年に『本納町史』の刊行より70年、昭和38『豊岡村誌』、昭和41年に茂原市史が刊行より約55年が経過し、この間、新たな史料が多数発見されているため、市史全体の見直しが必要となっている。	A:効率的である	古文書調査員3名、市史編 さん委員会委員8名は、経 験豊富で専門性も高い。民 間委託に比し、安価で効率 的である。	
	「情報の共	有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由	
CHECK	A:実現している	市民に対して、市史編さん のための資料提供を広報も ばらをはじめとする情報媒 体により発信し、現に協力い ただいている。	A:実現してい る	・市史編さん委員会の実施 ・市民、市内会社から市史編 さんのための資料の提供 ・講演会の実施による市史 編さんに対する関心の向上		・市民、市内会社から市史 編さんのための資料の提供 を受けている。	

所管による評価とその理由、課題・問題点

8割以上)

評 価

> С Τ

A:十分な成果を 活動指標どおり、かなりの成果を達成した。

挙げた(達成度 |今後は、特に専門的な分野の調査・執筆のため、各分野における調査執筆委員の委嘱をすすめ、市史編さんを加速させ ていく必要がある。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)

茂原市史編さん基本方針や刊行計画を策定したことにより、当初の目的は達成されていると認められる。引き続き、関係 者との連携を構築するとともに、市史編さんを遂行するものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定

- ・市史編さん委員会開催回数
- ・調査員による資料調査の実施時間数
- ・有識者による調査の実施時間数

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

- ・茂原市史調査報告書、及び関連資料の発行冊数
- •資料調査数
- 講演会の参加者数

令和元年度における具体的な目標

- 調査執筆委員の委嘱、協力員の選定
- 改 ・市史編さん委員会の開催により、茂原市史調査報告書の刊行
- 善 市史編さん事業講演会の実施
 - 編さん事務の加速のため、写真データーの格納方法の検討

令和元年度における事務事業スケジュール

- ・基本年4回の編さん委員会の実施
- ・調査にあたり課題が生じた場合の関連分野に係る編さん委員、及び 調査執筆委員等の会議の実施
- •7月に第1回調査執筆委員を委嘱し、この後必要な分野における執筆 委員の委嘱と協力員の選定をすすめる。
- •11月 必要な経費を令和2年度当初予算要求
- ・年度末 調査報告書の刊行

	基本計画									
章	節	項	細	実施計画事業名						
1 07 01 01 青少年健全育成事業										

	予算科目									
款	項	目	事	事業名						
9	05	01	04	青少年健全育成事業						

実施計画整理番号									
1070	107010101								
総合戦略 0 8 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2									

	事務事業	の概要						
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)						
L A N	青少年の健全育成を推進する。	関係団体を助成するとともに、青少年健全育成事業を実施する。						
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール						
画)	・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	・関係団体への補助金交付 ①青少年相談員連絡協議会 947千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催(1回)						

		区分	単		H29年度		ı	H30年度			令和元年度			令和2年度		
		巨刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
		事業費	千円	2,399	2,399	2,399	2,399	2,417	2,4	17 2,362	0	0	2,362	0	0	
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0	
	財源	県補助	千円	400	400	400	400	400	39	95 375	0	0	375	0	0	
	内	市 債	千円	0		_	0	0		0 0		0	0	_	_	
	訳	その他	千円	0			0	0	ļ	0 0			0			
		一般財源	千円	1,999	1,999	1,999	1,999	2,017	2,02	1,987	0	0	1,987	0	0	
	個.取			内容			取 計画	7組に係る 予	費用(千 算	·円) 決 算	個別	取組の達	成状況及び	「今後の方	向性	
	1	青少年相	談員	の活動支	援		1,00	6	1,006	1,006	青少年相 活動を支					
	2	スポーツ	ポーツ大会の開催					3	71	71	ソン大会 る。	を開催した	各協議会と共催でつつじマラ た。今後も継続して実施す			
D O	3	青少年育成茂原市民会議・青少年問題 協議会の開催					1,02	2	1,022		活動を支 青少年問 事項を協	援した。 < 題協議会 議した。<	今後も引き まを開催、 今後も継続	議に補助金を交付し、 引き続き支援を行う。 催、青少年に関する 継続する。		
(実施	4	④ 茂原少年少女発明クラブの活動支援						7	57	57	茂原少年 活動を支	少女発明援した。	ヨクラブに 今後も引き	補助金を 続き支援	交付し、 を行 う 。	
<u>.</u>	5	子どもセ	子どもセンターの運営支援						261	261	茂原市子 し、活動を う。					
	@							0	0	0						
	7							0 0 0								
	(8	8					0	0	0							
	(2)	9						0		0						
	10							0	0	0						
			틕	業費計			2,39	9 2	2,417	2,417						

- ・青少年の健全育成を図るため、関係団体に補助金を交付し活動を支援した。 ①青少年相談員連絡協議会 947千円(つつじマラソン大会、ふぁみりーグラウンドゴルフ、パトロール等) ②青少年育成茂原市民会議 986千円(少年の主張大会、ジャンピング大会、標語コンクール、講演会等)
- ③茂原少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター協議会 261千円 ・青少年問題協議会を開催(1回)

	:	平成30年	₹度	事	務	事	業評価シート	•		
	基本計画						予算科目			整理番号
章節項細	実施計画事業名		款	項	目	事	<u> </u>			
1 07 01 01	青少年健全育成事業		9	05	01	04	青少年健全育成	事業		107010101
30年度活動指標	・ (アウトプット)の達成状況	•	<u> </u>		30年	F度F	成果指標(アウト)	カム)の達成状況		
・補助金の交付 ・青少年問題協	件数 4件 議会の開催回数 1回				·事 つ	業の つじ	活性化された団 参加者数 マラソン大会736 問題協議会の参	人、主張大会270.	人、ジャ	ァンピング大会571人
妥当性	性の評価とその理由	本	可効性	の評	平価.	とそ	の理由	効率性	の評価	iとその理由
A:妥当である	青少年の健全育成を図るためには関係団体の活動が不可欠であることから、支援は 妥当である。	A:有効であ	5	境浄 体の	·化、 目的	非1 内達	事業の充実、環 〒防止等、各団 成のために補助 用されている。	A:効率的である)運営資金の一部を ており、効率的であ
「情報の非	共有」の状況とその理由	Γ	参加.	の物	犬況	とそ	の理由	「協働」	の状況	とその理由
A:実現している	市のウェブページや広報、						見を反映してい	A:実現している	と共催	・相談員連絡協議会 でつつじマラソン大 l催している。
所管による評価	とその理由、課題・問題点									
A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	青少年健全育成で成果を挙り 業の実施は今後も継続してい									
_	評価とその理由									
企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上) 本語の表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表した。 本語の表表を表表を表表した。 本語の表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を										
政策調整会議で	の評価とその理由									

庁議における方針

	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
A C T	・補助金の交付件数 ・青少年問題協議会の開催回数	・活動が活性化された団体数・事業の参加者数・青少年問題協議会の参加者数
改	令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
善)	・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	 ・関係団体への補助金交付 ①青少年相談員連絡協議会 922千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③少年少女発明クラブ 30千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催(1回)

基本計画											
章	節	項	細	実施計画事業名							
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業							

予算科目											
款	項	目	事	事業名							
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業							

実施計画整理番号									
1070	107010201								
総合戦略 0									

П	事務事業	の概要						
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)						
PLAN (幼児・児里を持つ保護者を対象に子級・講座を開催し、幼児・児里の健や かた成長な推進する	就学前の保護者を対象に「就学時子育て講座」、3歳児の保護者を対象に「幼児期家庭教育学級」、幼稚園児・小学生の保護者を対象に「家庭教育学級」を開催する。						
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール						
画)	参加者の増加を図る。	①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 64回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 14回						

		区分	単		H29年度		H30年度 ~					令和元年度 令和2年度				
		区万	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	<u>[</u>	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	事	業費	千円	614	614	500	614	614	5	527	583	0	0	583	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
Į		県補助	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
) 	京	市債	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	_	その他	千円	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	614	614	500	614	614	5	527	583	0	0	583	0	0
	個別 取組			内容		計画	又組に係る 予			g) 一 一 決算 個別取組の達月			成状況及び今後の方向性			
	1	幼児期家	医教	育学級の	14	l1	141		114	3歳児を持習の機会でする。						

	取組	内容	計画	予算	決算	個別取組の達成状況及ひ今後の方向性
	1	幼児期家庭教育学級の開催	141	141		3歳児を持つ親及び養育者を対象に、親としての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
	2	家庭教育学級の開催	333	333	273	幼稚園4校、小学校14校の保護者に、家庭での子の教育等の学習機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
D C		就学時子育で講座の開催	140	140		就学前の子どもを持つ保護者を対象に、子育てについての学習の機会を提供した。今後も引き続き 事業を実施する。
(実施	4		0	0	0	
)	5		0	0	0	
	6		0	0	0	
	7		0	0	0	
	8		0	0	0	
	9		0	0	0	
	10		0	0	0	
ĺ		事業費計	614	614	527	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

 ①幼児期家庭教育学級
 実施回数
 5回 / 延べ参加人数
 86人

 ②家庭教育学級
 実施回数
 60回 / 延べ参加人数
 2,335人

 ③就学児子育て講座
 実施回数
 14回 / 延べ参加人数
 623人

					基本計画							予算科目			整理番号			
	章	節	ij	組	実施計画	事業名		款	項	目	事		事業名					
	1	07	0	1 02	家庭教育学級開催	事業		9	05	01	03	家庭教育学級	開催事業		107010201			
	304	年度》	舌重	動指	票(アウトブット)の達り				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況									
	(2)家/	兄弟 廷孝	胡家原 教育:	庭教育学級 5回 学級 60回 育て講座 14回				参加人数①幼児期家庭教育学級 86人②家庭教育学級 2,335人③就学児子育て講座 623人									
				妥当'	生の評価とその理由		1	可効性	生の	評価	面とそ	効率性(の評価	とその理由				
	社会教育法で市町村教育 員会事務の一つに位置作 A:妥当である られている。また、総合計 とも整合するものであり、 当である。						受講後のアンケートでは概 効である ね良好な評価が得られてお り、有効である。 A: 効率的で							必要最 してお ^い	低限のコストで実施 リ、効率的である。			
		Γ	情	報の	共有」の状況とその理	曲	Г	参加	Jの	状》	兄とそ	の理由	「協働」の	の状況	とその理由			
	A:写	実現し	て	いる	各学級、講座の対象 報を提供している。	象者に情 A:実 る	現して	い				より受講者の意 ずている。		PTA等 いる。	と協力して実施して			
C H	所管による評価とその理由、課題・問題点																	
K	挙(達		: 子どもの発達段階I 子どもの健全な成長 いと考える。このこの	長にとって家庭	教育が	果た	すれ	殳割	は非	常に重要であり	本事業は行政の取	収り組み				
)	企i	画政策	策詞	果での	P評価とその理由													
	挙し		}な成果を 開催回数及び参加者数が共に減少しているものの一定の成果を挙げたと認められる。より一層の参加が得られるよう、 内容や周知方法について検討し、内容の充実に努めるものとする。															
	政	策調																
					での評価とその理由													
	庁詞	義にな	こおける方針															
	令	和元年	年月	度活動	動指標(アウトプット)(の設定				令	和元	年度成果指標(7	アウトカム)の設定					
A C T		催叵								· 参	参加人	数						
(改善	令	和元4	年月	度には	おける具体的な目標					令	和元	年度における事	務事業スケジュール	,				
善)	参加	加者(の±	曽加る	F図る。					2	家庭:	期家庭教育学級 教育学級 見子育て講座	大 実施予定回数 実施予定回数 実施予定回数	5回 56回 14回				

基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名				
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業				

I	予算科目								
	款	項	目	事	事業名				
	9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業				

実施計画整理番号						
107010202						
総合戦略 整理番号	22304					

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N	夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流、地域教育力の活性化を目的に夏休み子ども教室を開催する。また、放課後子どもプラン運営委員会において事業の検証を行い、開催校を順次増やすことで推進を図る。	
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
(計画)	平成29年度から1校増やした6校で開催する。	・豊田っ子クラブ 期間:7/25~7/27 平日3日間 ・緑ケ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/2 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/6~8/8 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/8~8/10 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/20~8/22 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/27~8/29 平日3日間

								•茂原~	>子クラブ :	期間:8/27	~8/29 平	日3日間		
	屋八	単		H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度	
	区分	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
	事業費	千円	377	377	301	472	448	2	84 379	0	0	379	0	0
	国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
財	県補助	千円	250	250	200	313	298	1	88 252	0	0	252	0	0
源内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
::		千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	127	127	101	159	150		96 127	0	0	127	0	0
	5月 又組						双組に係る 予	費用(千 算	- 円) 決算	個別	取組の達用	成状況及び	「今後の方	向性
(① 放課後子	ども	プラン運営	きょうしょう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいし はいし はいし はいし はいし はいし はいし はい	の開催	8	8	88	66	事業実施 の検討と	前後に1 検証を行	回ずつ、 ⁴ った。現状	∓2回実施 ∜維持。	。事業
(② 夏休み子	ども	教室の運	営		38	4	360	218	豊田・緑ケ 校の6校	ァ丘・中の で実施し <i>f</i>	島・茂原 こ。拡大。	▪鶴枝▪本絲	納小学
(3						0	0	0					

	4人小山		前回	了异	次 异	
	1	放課後子どもプラン運営委員会の開催	88	88	66	事業実施前後に1回ずつ、年2回実施。事業 の検討と検証を行った。現状維持。
	2	夏休み子ども教室の運営	384	360	218	豊田・緑ケ丘・中の島・茂原・鶴枝・本納小学 校の6校で実施した。拡大。
D	3		0	0	0	
〇(実施	4		0	0	0	
施)	5		0	0	0	
	6		0	0	0	
	7		0	0	0	
	8		0	0	0	
	9		0	0	0	
	10		0	0	0	
		事業費計	472	448	284	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・豊田っ子クラブ 期間:7/25~27 平日3日間 ・緑ケ丘っ子クラブ ・中の島っ子クラブ ・鶴枝っ子クラブ ・本納っ子クラブ

期間:8/27~8/29 茂原っ子クラブ

会場:豊田小学校 会場:緑ケ丘小学校 会場:中の島小学校 会場:鶴枝小学校 会場:本納小学校 会場:茂原小学校

申込児童数:36名 申込児童数:26名 申込児童数:36名 申込児童数:41名 申込児童数:20名 申込児童数:34名

				1 720	. '		, -3	- 1323	-,-,			
				基本計画		予算科目						
章	節	項	細	実施計画事業名		款	項	Ⅲ	事	事業名		
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業		9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業		
0年度活動指揮(マウレブット)の達成性辺								つの右	中中	世世性煙(マウトカル)の達成性温		

整理番号 107010202

				<u> </u>								
	・豊田っ子クラブ ・緑ケ丘っ子クラブ ・中の島っ子クラブ ・鶴枝っ子クラブ ・本納っ子クラブ	(アウトブット)の達成状況 期間:7/25~27 平日3日間 期間:7/31~8/2 " 「期間:8/6~8/7 平日2日間(8, 期間:8/10 平日1日間(8/8~8 期間:8/20~8/22 平日3日間 期間:8/27~8/29 "		・豊田っ子クラブ 延参加ノ ・緑ケ丘っ子クラブ 延参加ノ ・中の島っ子クラブ 延参加人 ・鶴枝っ子クラブ 延参加人 ・本納っ子クラブ 延参加人	・緑ケ丘っ子クラブ 延参加人数: 62名(1日平均 20.7名) ・中の島っ子クラブ 延参加人数: 66名(1日平均 33.0名)							
	亚 山 州	の製価とその理由	左 劫战	の証価とその理由	热衷性	の証価しるの理由						
	女 ョ☆ A: 妥当である	をの評価とその理由 国の推進する放課後子供プランによる事業であり、妥当である。	A:有効である	事業の意図する子どもの安 心安全な居場所作りと異年 齢交流は達成されており、 有効である。		の評価とその理由 費用は運営委員の報酬、 コーディネーターの謝礼及 び最低限の消耗品費のみ であり、削減の余地はない。						
	「情報の出	も	「糸加	」の状況とその理由	「拉働」	の状況とその理由						
С		広報及びウェブページ	A:実現してい	事業の検証等を行う放課後		コーディネーター、ボラン ティアとして地域住民が運 営に参画している。						
Н	所管による評価。	とその理由、課題・問題点										
E C K	A:十分な成果を	を										
)	企画政策理での	国政策課での評価とその理由										
	A:十分な成果を 挙げた(達成度 8割以上)	を										
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・											
	以末調登会議ぐ	じの評価とその埋田										
	庁議における方	針										
		J 2-1										
	令和元年度活動	指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(ア	ウトカム)の設定							
	. 1675 1 20120	71771		1-12-1-12-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,							
A C T	夏休み子ども教			-参加児童数								
$\widehat{}$	令和元年度にお	ける具体的な目標		令和元年度における事務	§事業スケジュー	ル						
改善)	マンネリ化の無し	いよう、各教室のプログラムを 法を変更し、より多くの参加を		・豊田っ子クラブ 期間:・緑ケ丘っ子クラブ 期間・中の島っ子クラブ 期間・鶴枝っ子クラブ 期間・本納っ子クラブ 期間	7/22~7/24 平 :7/29~7/31 平 :8/5~8/7 平	·日3日 ·日3日 日3日 日3日 日3日						

	基本計画								
章	節	項	細	実施計画事業名					
1	07	01	03	青少年相談指導事業					

	予算科目							
款	項	目	事	事業名				
9	05	04	01	環境浄化と非行防止事業				

実施計画整理番号					
107010301					
総合戦略 整理番号	0				

	事務事業	の概要				
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)				
P L A N	戊原巾育少午柵導員連絡協議会と連携し、街頭柵導・相談店動・環境浄化活動・啓発活動を推進し、青少年の健全育成に努める。	「夜間の街頭補導」を充実する。 「列車補導」「茂原七夕まつり」「県下一斉パトロール」等の啓発補導を充実する。 他支部との連携や研修会へ補導員とともに積極的に参加する。 相談体制を整え相談活動をより充実する。 ネットパトロールを充実する。 登下校時のパトロールを充実する。				
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール				
画)	青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	①街頭補導活動→夜間補導(6月~3月)、七夕まつり補導(7月)、県下 一斉パトロール(7月)、列車補導(10~11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8 月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不 審者発生時の対応(随時)				

		区分	単		H29年度		I	H30年度		-	令和元年度	Ę	,	令和2年度	
		四月	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	1,295	1,300	1,229	1,257	1,242	1,23	1 1,263	0	0	1,268	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	250	250	250	250	250	25	0 250	0	0	250	0	0
	源内	市債	千円	0	0	0	0	0	ı	0 0	_		0	0	0
	訳	その他	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,045	1,050	979	1,007	992	98	1 1,013	0	0	1,018	0	0
	個知			内容			取 計画	7組に係る 予		円) 決 算	個別	取組の達成	成状況及び	「今後の方	向性
	1) 街頭補導	活動	の実施			87		871	868	2人)を補	街頭補導を 導した。今行 関と連携し	後も非行防	止、早期 多	発見のた
	2	1 相談活動	の実	施				0	0	U	生に関する	「年比+12 る相談が主 「くす」を通り	である。今	後もしおり	の配布
D O (実	3	〕 環境浄化	活動	の実施			8	6	68		ネットパトロ告し、改善	コールを通 した。また 用について	、携帯電話	ら やスマー	フォンの
実施)	4	非行防止	.の啓	⁷ 発			16	5	165	164	リーフレッ て訴えたり	トや広報誌 リ、家族に応 た。今後も	けての子	育てアドバ	イスを掲
	(5)	子どもの!	安全	を守る活動	動の実施		12	8	138	132	安全確保	■3)・下校® を行った。ā ことで抑止Ⅰ テった。	た、不審	者の発生し	た場所を
	6)						0	0	0					
	7)						0	0	0					
	8)						0	0	0					
	9)						0	0	0					
	10)						0	0	0					
			哥	業費計			1,25	7 1	,242	1,231					•

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

①街頭補導活動(青少年補導員との実施回数…夜間補導55回、列車補導3回、七夕祭り補導2回、啓発補導2回) (指導センター職員のみの実施回数…夜間補導8回、学校行事特別巡回4回) ②安全・安心な使用のためのリーフレット「ケータイ&スマホは正しく安全に使いましょう」の配布(5月) 悩み・相談用しおりの配布(10月)

基本計画									
章節項細				実施計画事業名					
1	07	01	03	青少年相談指導事業					

予算科目									
款	項	目	事	事業名					
9	05	04	01	環境浄化と非行防止事業					

整理番号 107010301

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

妥当性の評価とその理由

・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、 県下一斉パトロール、列車補導等、年間62回実施。

・千葉ブロック研修会(1回)、中学校区研修会(6回)、その他の研 修会参加により、識見を高め、青少年健全育成に取り組んだ。 •不審者発生状況の把握

30年度成果指標(アウトカム)の達成状況

·補導状況(305人補導、主な行為: 怠学·怠業、道路交通法違反)

効率性の評価とその理由

- ·青少年補導員(補導·研修会)参加率63%
- 相談状況(相談件数173件、主な内容:家庭生活、学校生活)
- ・不審者発生状況(市内29件・近隣市町村28件)の情報提供

A:妥当である	青少年健全育成を目指した街頭補導事業は、公的な関係機関及び市民との連携が必要である。その推進役として自治体が関与すべき事業である。	A:有効である	日々の地道な補導活動や関係機関との情報共有等は、 青少年の健全育成・非行防 止に役立っている。	B:やや効率的 である	28年度より報酬額の増額 となったが、補導員の活動 実績を考慮すると他市と同 額程度の報酬額を支給す べきである。	
「情報の共	(有」の状況とその理由	「参加	」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由		
A:実現している	広報紙「くす」により補導・相談 状況及び不審者情報を掲載し 市民に提供している。また、不 審者情報はホームページで公 表している。		指導センター運営協議会を 年2回開催し、10名の委員 から事業に対する助言をい ただいている。		補導員とセンター職員合同で街頭補導活動を行っている。	

有効性の評価とその理由

所管による評価とその理由、課題・問題点

B:ある程度の 成果を挙げた 割)

E

С

K

評 価

学校や関係機関と情報の共有化を図り、情報を活用した街頭補導活動を実施することができ、非行防止・早期発見につ ながった。また、リーフレットの配布や広報紙「くす」等で啓発したことにより、小中学校は落ち着いている。心配のあった **(達成度4割~7**│有職少年たちも定職に就き、オートバイでの迷惑走行も減ってきている。一方で、SNSを利用した交友関係が広域化し ている。市内だけでなく、近隣市町村や関係機関との密な情報交換が必要になる。

企画政策課での評価とその理由

B:ある程度の 成果を挙げた

割)

青少年の健全育成に資する取り組みを実施しており、一定の成果を挙げていると認められる。引き続き関係団体と連携 (達成度4割~7 を取り、青少年の非行防止・早期発見のための情報の共有化と迅速な対応を図るものとする。

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定

- ・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導 県下一斉パトロール、列車補導等、年間60回実施。
- ・千葉ブロック研修会(1回)、中学校区研修会(6回) 市補連研修 視察(1回) その他の研修会への参加
- ・ネットパトロール
- ・不審者発生状況の把握

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

- •補導状況(人数、内容)
- ·青少年補導員(補導·研修会)参加率
- •相談状況(人数、内容)
- ネットパトロール実施状況(回数、人数)
- 不審者発生状況の情報提供

令和元年度における具体的な目標

令和元年度における事務事業スケジュール

下一斉パトロール(7月)、列車補導(10~11月)

②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) 青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化

③環境浄化活動→ネットパトロール通年

と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。

④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8 月除く)

①街頭補導活動→夜間補導(6月~3月)、七夕まつり補導(7月)、県

⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、 不審者発生時の対応(随時)

Т

С

改 善

	基本計画										
章 節 項 細 実施計画事業名											
1	08	01	01	国際化推進事業							

	予算科目									
款	款 項 目 事				事業名					
2	O	01	09	02	国際化推進事業					

実施計画整理番号							
108010101							
総合戦略 整理番号	0						

	事務事業	の概要
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
Τi		・姉妹都市交流を推進し、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・国際交流協会と連携しながら、市民の国際意識の高揚を図るととも に、多文化共生社会の実現を目指す。
計	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
画)	・姉妹都市訪問団の受け入れを通じ、様々な分野での国際交流を図る。 ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する 体制の強化を図る。	・姉妹都市ソルズベリー市訪問団を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。

		区分			H29年度			H30年度		,	令和元年度	Ę		令和2年度	
		巨刀	位	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
		事業費	千円	385	1,455	1,122	1,797	4,359	3,47	968	0	0	4,166	0	0
		国補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	財源	県補助	千円	0	0	0	0	0		0 0	0	0	0	0	0
	内	市債	千円	0	0	0	0	0		0 0	, and the second		0		
	訳	その他	千円	284		,	1,697	4,259	<u> </u>	868			4,066	0	0
		一般財源	千円	101	1,171	100	100	100	10	100	0	0	100	0	0
	個知			内容			計画	り組に係る 予	5費用(千 ∙算	 決算			成状況及び		
	1	姉妹都市	訪問	団の受け	入れ		1,64	15	1,769	888	訪問団55 実施予定	名を受け、 こっ後も	入れ。次回 4年ごとに	回受け入∤ 実施予定	เเสR5ไC
	2	姉妹都可	訪問	団の派遣				0	0	0	派遣なし。次回派遣はR3に実施予定。今後も 4年ごとに実施予定。				
D	3	姉妹都はけ入れ	うの学	生及び少	キ野球チ	ーム受		0	0	0	受け入れ	なし。今行	後も教育る	交流を継 続	売する。
〇(実施	4	茂原市国	國際交	泛流協会等	その活動 推	進	10	00	100	100	今後も活動が充実するよう支援し、活動拡大 を目指す。				
施)	(5)	国際交流	选基金	€の積立			Ę	52	2,490	2,490	定期預金利子及び基金への寄附24件。今後 も継続する。				
	6							0	0	0					
	7							0	0	0					
	8							0	0	0					
	9)						0	0	0					
	Œ						0	0	0						
			=	事業費計			1,79)7	4,359	3,478					

- ・姉妹都市ソルズベリー市より副市長をはじめとする訪問団5名を受け入れ、茂原七夕まつりへの参加や日本文化体験等を通じ、市民との交流を
- うた。
 ・茂原市国際交流協会は、七夕まつりに参加しPRに努めるとともに、外国語教室、国際交流パーティー、国際交流バスツアー等の国際交流事業を実施し、市民が国際交流に参加できる機会の創出及び異文化間の相互理解、国際意識の醸成を図った。
 ・国際交流協会事業として、在住外国人のための生活相談会を開催し、外国人が安心して暮らせるよう、多文化共生社会の実現を目指した。

	基本計画										
章	節	項	細	実施計画事業名							
1	08	01	01	国際化推進事業							

予算科目										
款	款 項 目 事				事業名					
2		01	09	02	国際化推進事業					

整理番号 108010101

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況

- ・ソルズベリー市訪問団受け入れ回数及び人数:1回、5人
- ・ソルズベリー市情報提供回数:7回(広報2回、HP2回、FB2回、 TV1回)
- ・国際交流協会会員の加入促進:27名の新規会員が加入し、108 名となった。
- 国際交流協会主催事業の実施回数:21回(PR事業2回、日本語 学習支援事業4回、国際交流事業10回、外国語教室5教室)
- 30年度成果指標(アウトカム)の達成状況
- ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数:21回 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数:個人会員27名増

	妥当性	きの評価とその理由	有効性	生の評価とその理由	効率性の評価とその理由		
	A:妥当である	国際交流の実施により国際 意識の醸成や異文化理解 が進み、多様性を認める社 会の構築に貢献している。	B:やや有効で ある	国際交流活動に参加している市民は一部に限定されて おり、在住外国人への支援 もまだまだ十分とは言えない。	国際交流事業に必要な様々なスキルやノウハウ持つ個人や団体を有するA:効率的である際交流協会との連携により、行政だけでは成し得ない事業を効率的に実施でている。		
	「情報の共	も は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	「参加	」の状況とその理由	「協働」	の状況とその理由	
C H E	A:実現している	市ホームページ、協会ホームページ、Facebook、自治会回覧や市広報誌などを利用し、PRに努めている。	A:実現してい る	国際交流協会の会議には在 住外国人を含む市民が参加 し、企画から共に取り組んで おり、市民意見を積極的に 取りいれて事業を実施して いる。	A:実現している	国際交流協会の活動は、在 住外国人を含む市民との協 働が実現できている。	

所管による評価とその理由、課題・問題点

評 価 挙げた(達成度 ・国際交流協会の会員数は増加しており、事業も年々充実してきている。また、国際交流協会と協働で国際交流事業を 8割以上)

Κ

С Т

改 善

- ・姉妹都市ソルズベリー市より副市長をはじめとする訪問団5名を迎え、茂原七夕まつりへの参加や日本文化体験、公共 A:十分な成果を 施設の訪問等を通じて市民と交流し、両市の友好親善と相互理解を深めた。
 - 実施することにより、市民が国際交流事業に参加する機会を創出できている。 ・在住外国人が安心・安全に暮らせる取り組みは十分とは言えないものの、年々充実してきている。

企画政策課での評価とその理由

A:十分な成果を

姉妹都市訪問団を迎えての国際交流活動を通じて、市民の国際感覚や意識づくりに大いに寄与しており、成果が認めら

政策調整会議での評価とその理由

庁議における方針

令和元年度活動指標(アウトブット)の設定

- 姉妹都市ソルズベリー市からの学生等受入回数及び人数
- 国際交流協会会員の加入人数
- ・国際交流協会主催事業の実施回数

令和元年度成果指標(アウトカム)の設定

- ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数
- ・国際理解・国際化意識の醸成された人数

令和元年度における具体的な目標

・姉妹都市ソルズベリー市から学生等の受け入れを通じ、学生や 市民の国際交流の機会を創出する。

- ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。
- 在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を 支援する体制の強化を図る。

令和元年度における事務事業スケジュール

- ・姉妹都市ソルズベリー市から学生等を受け入れる。
- ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流 活動へ参加できる機会を創出する。
- ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。
- 国際交流協会会員の加入を促進する。